

令和2年度

福島県道徳教育総合支援事業

令和2年度 道徳教育推進校実践報告書



福島県教育委員会

令和 2 年度 道徳教育推進校一覧

地区	学校名
県北	二本松市立石井小学校
県中	浅川町立浅川小学校
県南	白河市立小田川小学校
会津	喜多方市立山都中学校
南会津	檜枝岐村立檜枝岐小中学校
相双	南相馬市立鹿島中学校
いわき	県立四倉高等学校

県北地区道徳教育推進校「二本松市立石井小学校」実践報告書

1 学校紹介

学 校 名	二本松市立石井小学校
所 在 地	二本松市小高内 3 番地
校 長 名	遠藤 春光
教 育 目 標	主体的に学び励み合う 心豊かでたくましい子供の育成 ○ 深く考える子 ○ 思いやりのある子 ○ たくましい子 ○ やりぬく子
学級及び 児童生徒数	学級数 8 児童数 107 名



2 研究テーマ

他者とつながり、共にによりよく生きようとする子供の育成

3 研究テーマ設定の理由

コロナ禍の今、学校生活においても様々な制限がなされるようになり、人と直接関わりながら学ぶ機会が減り、子供たちの学びや活動も個々に依るところが多くなってしまった。臨時休業明けの5月。Yさんは体調不良を訴えることが増えた。表情も硬い。ある日の算数科の授業で、Yさんは課題の解決にどのように取り組んだらよいか分からない様子だった。教師が個別に声をかけよう、そう思った時、隣の席のAさんが、Yさんの反応をうかがいながら、少しずつそっとYさんへ説明を始めた。Aさんも、算数科は苦手だと言う。見ているうちにYさんの表情が和らいでいくのが分かった。それからしばらく考えたYさん。「できました！」と、そこにはYさんの自信に満ちた声と顔が見られた。個での学習では見ることでできなかったYさんの意欲と笑顔があふれた場面であった。そのような場面から数か月たった今、Yさんは毎日明るい表情で過ごしている。算数科を中心に学習には苦手を感じつつも、みんなと一緒に一生懸命がんばっている。

これらの姿から、人とのつながりには力があると感じる。今こそ、子供たちに仲間と共に学ぶ喜びを感じさせたい。距離は離れていても、共に在ること、共に活動し考えることを大切にする。様々な機会をとらえて豊かな体験の場をつくり、一人一人に道徳性を育む。そして、それらのつながりや体験を家庭、地域へと広げ、子供たちが様々な立場の人とつながり、関わっていくことこそが、今、求められているのだと強く感じるようになった。

石井地区は、三世代同居の家庭が多く、子供たちは多世代の関わりがある。また、学校教育に協力的な地域の土壌がある。地域には学校ボランティアとして教育活動に参加したり、「石井っ子放課後子供教室」として地域社会の中で心豊かに育てようとしていたりする人々がいる。さらに、古くから伝わる伝統芸能や行事などがあり、地域に長い歴史の中で続いてきた強いつながりが残っている。

これらの石井地区の特性を生かし、他者との関わりを取り入れた教育活動を展開する。また、伝統文化が色濃く息づく地域として、文化、伝統も含めて他者にとらえ、地域にある物的・文化的資源を教育活動に取り入れていく。「つながれ ひろがれ 石井のわ」のスローガンのもと、たくさんの保護者や地域の人と関わって子供たちの心を豊かに育て、他者と共に生きる力を育んでいきたい。

4 研究の歩み

月日（曜日）	主な研究内容	備 考
4月27日（月） 6月26日（金）	現職教育全体会（研究内容等の検討） 第1回校内授業研究会（3年村松直子教諭） 講師 福島県教育庁県北教育事務所 佐藤倫子 指導主事 二本松市教育委員会 鹿目敦子 指導主事 同 奥山 満 指導主事	地区内 公開
8月27日（木） 9月14日（月）	「看護の出前講座」柊記念病院看護係長 様 第2回校内授業研究会（1年酒井浩子教諭） 講師 福島県教育庁県北教育事務所 佐藤倫子 指導主事 二本松市教育委員会 太田孝志 指導係長 二本松市立小浜小学校 校長 藤原 謙 様	
10月21日（水）	第3回校内授業研究会（6年伊藤恭子教諭） 講師 福島県教育庁義務教育課 肥沼志帆 指導主事 福島県教育庁県北教育事務所 佐藤倫子 指導主事 二本松市教育委員会 太田孝志 指導係長	
11月 9日（月）	第4回校内授業研究会（2年高島柚香教諭）要請訪問 講師 福島県教育庁県北教育事務所 佐藤倫子 指導主事 二本松市立小浜小学校 校長 藤原 謙 様	
12月 2日（水）	道德教育地区別推進協議会 授業公開 （1年酒井浩子教諭、3年村松直子教諭、5年後藤健一教諭） 講師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様 福島県教育庁義務教育課 肥沼志帆 指導主事 福島県教育庁県北教育事務所 佐藤倫子 指導主事 二本松市教育委員会 太田孝志 指導係長 二本松市立小浜小学校 校長 藤原 謙 様	
1月上旬 2月	現職教育全体会（次年度に向けた研究の方向性） 令和2年度第18回二本松市教育実践論文 最優秀賞	

5 研究推進の成果と課題

【視点1】道德教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ① 一貫性のある道德教育全体計画 ○ 道德教育全体計画は、道德指導の方針、重点目標をもとに、道德科、各教科等、生徒指導等の6学年間を見通し、計画的、発展的な指導となるよう配慮した。また、子供や家庭、地域の実態に応じ、学校、家庭、地域が連携し、豊かな体験の場を設けるなどして、道德性を養うことができるように作成した。 ② 指導の見通しのもてる別葉 ○ 別葉は、重点内容項目に係る道德科の授業を中心に、他教科等との関連を踏まえた指導ができるように作成した。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 重点内容項目について作成した別葉は週案に綴じ、成果や課題を記入することで、道德教育の効果が高まるようにした。また、次年度に生かすために、新たに見いだした関連について見やすく記入してきた。

【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について

① 豊かな体験を通した道徳性の涵養

- 道徳科で育まれた道徳性の実践の場として、様々な場面で豊かな体験活動ができるように教育課程を見直した。「つながれ ひろがれ 石井のわ」をスローガンに掲げ、子供と教職員、保護者、地域の方々が一体となって取り組んできた。他者のよさを伝えるきりりカード、石井地区に伝わる伝統文化調べと体験、幼稚園との交流、学校や地域の歴史調べ、担任外教員による読み聞かせ等により、道徳性がよりよく育まれていると感じている。



伝統の「きりりカード」

② 子供たちがじっくりと自己を見つめ、自己の生き方について実感的に考えられるような授業の工夫

- 発達段階や教材に合わせた役割演技、動作化などの表現活動により、子供たちは具体的、そして実感的に考えを深めることができた。
- 授業の終末には振り返りの時間を十分に確保し、自己をしっかり見つめることができるようにした。自分の具体的な体験と結び付けることで、道徳的価値のよさについて実感を伴いながら考えることができるようになってきた。
- 子供たちの考えを整理する場、つなぐ場、振り返る場、思考を促す場としての板書の機能を、授業の中で効果的に働かせることができるよう努めてきた。板書の生かし方について、今後も研究していきたい。



保護者との役割演技

③ 子供と教師のよさを生かす指導の工夫

- 子供が相手意識をもって話すこと、そして、自分の考えと相手の考えを比べながら聞くことを話合いの基本とし、指導を積み重ねてきた。少人数による対話も取り入れ、子供一人一人が互いに聞き合える場を大切にしてきた。
- 子供のよさや考えを見取り、引き出し、つなぐ教師のコーディネート力を高めていけるよう、すべての授業において、つなぐ働きかけを意識して取り組んできた。
- 互見授業により、授業の質的向上を目指してきた。ポイント参観（10分～15分）とし、参観後に「みがきあいシート」により交流した。その内容や授業者の振り返り等を校内通信「道徳だより」で共有していることは、全体の授業力向上につながっている。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

① 取組の発信について

- 道徳教育についての取組は、学校から家庭、地域へ積極的に発信した。（各種便りやHPによる情報発信、道徳科のノート、「えがおつなごう二本松プロジェクト」等）

② 地域素材を取り入れた教育課程

- まずは、教師が地域を知ることが大切であることを確認し、地域素材を道徳教育に生かす教育課程を実施した。3学年の総合の時間では、地域の人をゲストティーチャーに招き、七福神、鈴石神社等、石井地区に伝わる踊りや唄を教えていただいた。また、伝統を引き継いでいる地域の方の思いを聞く場を設け、交流を図った。5学年の道徳科では、地域の方々が長きにわたって行っている「地域の子供のための行事」を取り上げた。行事に携わっている地域の方をゲストティーチャーに招き、継続して取り組んでいる理由について話していただき、思いを共有することができた。
- 保護者や地域の方々に対し、互いの思いを交流することを目的に、創立20周年に係る「エールメッセージ」を募集した。子供たちに寄せられたメッセージは、学校行事で紹介した。その後、子供たちは受け取ったメッセージをもとに、「ありがとうメッセージ」を丁寧に書き上げた。子供たちのメッセージは、保護者来校日に掲示し、保護者が受け止められるようにした。家族や地域の方々の思いと、子供たちの思いを双方向に伝え合う好機となった。



地域の方を招いた道徳科授業



全校児童が書いた「ありがとうメッセージ」

③ 保護者と共につくる道徳授業の実践

- 保護者が参加する授業を計画、実践してきた。保護者は授業の中で、グループに入って子供と話し合ったり、「心のものさし」に自分の考えの位置を示し、その理由等について表出したりした。保護者の感想から、保護者にとっても、多様な考えにふれ、考えを広めたり深めたりするよい機会となっていることが分かった。
- 授業の振り返りを、保護者と共有できるようにした。振り返りを書いた道徳ノートや学習プリント、連絡帳を通して、保護者は子供の思いを受け止め、思いに寄り添った言葉をかける機会となった。

④ 親子の交流の機会の設定

- 親子で触れ合う時間を充実させるために、「家読りレー」を実践した。子供からは、次のレーを楽しみにする声が聞かれ、保護者からは「子供の素直な感じ方に心が温かくなった」等の感想が寄せられた。親子や家族と一緒に絵本などを読むことは、親子の思いや考えを交流する貴重な体験となっている。



保護者の思いを聞く姿

6 研究を振り返って

◇ 家庭・地域と共につくる道徳

地域の人材や伝統文化等に恵まれた本校の特性を生かして、教育活動を展開してきた。保護者や地域の方を道徳科や総合的な学習の時間等に招き、共に考える場を積極的に設けてきた。これらの取組により、子供たちは、地域に親しみをもち、地域のものや人とのつながりに意欲を高め、より主体的に関わりをもつことができるようになった。次年度以降も、家庭や地域と共につくる道徳教育を継続・発展させていきたい。



地域の「七福神」の体験

◇ 豊かな体験でつながる道徳教育

今年度は、「つながり」を視点に教育活動を見直した。新しい学校行事、異学年交流、保護者や地域の方の授業参加等、教育活動の展開を工夫することにより、子供たちは、自分たちを取り巻く様々な人やものと、多くのつながりをもつことができた。子供たちは体験すること、自分の目で確かめることが大好きである。時には試行錯誤しながら粘り強く関わり合うことで、新たな気づきを生み、考えを深めた。コロナ禍ということもあり、人やものとの関わりながら学ぶことの楽しさも、実感することができた。家庭、地域と共に体験する教育活動をさらに充実させたい。



たて割り班の旗づくり

◇ 道徳科の授業の充実と教師の振り返りの時間の確保

全教職員の共通理解を図りながら、道徳教育の要となる道徳科授業の質的向上を目指した。役割演技や動作化、振り返りの時間の十分な確保、板書の工夫等、道徳科の授業づくりについて、考えを交流させながら学ぶことができた。互見授業の積み重ねは、自身の道徳科授業について振り返ることにもつながっている。次年度も、授業について振り返る時間を大切にしていきたい。



考えを伝え合う道徳科授業

道徳教育全体計画

「つなぐれ ひろがれ 石井のわ」

諸法規

- ・ 日本国憲法
- ・ 教育基本法
- ・ 学校教育法
- ・ 学習指導要領
- ・ いじめ防止対策推進法
- ・ 二本松市からの指針

時代や社会の要請

- ・ いじめ、差別の根絶
- ・ 多様な価値観の中での判断と情報の選択
- ・ 国際化、情報化
- ・ コロナ対策、新しい生活様式

各教科

【国語】日常生活における人との関わりの中で、互いの立場を尊重しながら伝え合う力を高める。

【社会】伝統と文化を尊重し、我が国や郷土を愛する心を育てる。

【算数】よりよく問題を解決しようとする態度、学びを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

【理科】生命を尊重し、自然環境を大切にしようとする態度を育てる。

【生活】自分や身近な人々、社会及び自然の関わり等に気付き、基本的な生活習慣や技能を身に付ける。

【音楽】音楽を愛好する心情と感性を育み、豊かな情操を養う。

【図工】つくり出す喜びを味わい、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度や豊かな情操を養う。

【家庭】家族の一員として、生活をよりよく工夫しようとする態度を育てる。

【体育】運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

【外国語】言語や文化に対する理解を深め、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

教育目標

主体的に学び励み合っ心豊かでたくましい子供の育成

- 深く考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- やりぬく子

道徳教育の目標

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自律した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳教育の方針

- 家庭、地域との連携を図り、学校、家庭、地域が一体となった道徳教育を進める。
- 学校教育全体、家庭、地域も含め、豊かな体験の場を意図して作り、道徳性を養うとともに実践の場とする。
- 道徳教育の要として、多面的・多角的に考える道徳科の授業の充実を図る。

今年度の重点目標

親切、思いやり 家族愛、家庭生活の充実
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

【めざす子どもの姿】
互いを尊重し合いながらつながり、主体的に考え行動する子ども

【低学年】
○ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
○ 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ。
○ 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつ。

【中学年】
○ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。
○ 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っ
て楽しい家庭をつくる。
○ 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつ。

【高学年】
○ 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。
○ 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。
○ 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ。

児童の実態

- ・ 素直で、まじめである。
- ・ 友達に親切にできる。

教師、保護者の願い

- ・ 思いやりのある子供
- ・ よく考え、粘り強く取り組む子供
- ・ 協力し、主体的に行動できる子供

地域の実態

- ・ 自然豊かな地域で3世代同居家庭が多い。地域社会のつながりが強い
- ・ 学校への関心が高く協力的である。
- ・ 古くからの伝統文化が残り、現在、未来に伝えようとしている。
- ・ 現代的な生活の仕方をしている。

特別活動

【学級活動】学級や学校での生活をよりよくするために話し合い、合意形成して実践したり、自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることで、望ましい人間関係やよりよい集団の形成に参画する態度を育てる。

【児童会活動】学校におけるよりよい生活を築くために、諸問題を見出し、協力して解決していく自発的、実践的な活動を通して、望ましい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度を養う。

【クラブ活動】協力して共通の興味・関心を追究する自発的・自治的な活動を通して、異年齢による望ましい人間関係の形成や個性の伸長を図る。

【学校行事】望ましい人間関係、自立的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などに関わる道徳性を育てる。

総合的な学習の時間

地域の素材を生かし、探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。

- 地域探検
- 伝統文化調べ
- 地域施設への訪問
- 幼稚園との交流
- 学校、地域の歴史調べ
- 学校の伝統を受け継ぐ

道徳科の指導方針

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

- 家庭、地域との連携を図るとともに、豊かな体験を基盤とした授業づくりを進める。
- 子どもたちがじっくりと自分を見つめ、自己の生き方について実感的に考えられるようにする。
- 互いの考えを尊重し合い、共に学び合える授業づくりに努める。

生徒指導

- 互いの人格を尊重し合い、思いやりの気持ちをもって生活できるようにする。
- 児童相互、児童と教師の心の交流を図り、望ましい人間関係を基盤とした学校生活をつくる。
- いじめや差別、偏見を許さず、公正、公平な見方、接し方を実践できるようにする。
 - ・ きらりカード
 - ・ 学校生活アンケート
 - ・ いじめ調査

教育環境の整備

児童の豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高める環境づくりを行う。

- 児童と教師、児童同士の望ましい人間関係づくり
- 言語環境の整備
- 校舎、校庭の美化と緑化
- 道徳コーナーの充実

幼小中との連携

二中学区における幼小中と連携、交流し、つながりを広げ深める。

- 二中学区スタンダードの実施
- 情報の発信、共有
- 石井幼稚園との交流
- 二本松二中の出前授業

異学年交流

全校での取り組みや縦割り活動の充実を図り、全校生でのつながりを広げ深めるとともに、道徳的実践の場とする。

- 各行事
- 集団登校
- 縦割り清掃
- 児童集会
- 委員会活動
- クラブ活動
- きらりカード
- 担任外による読み聞かせ

別葉 3年(2) B 親切、思いやり

相手のことを思いやり、進んで親切にする						
月	国語科	その他の関連	道徳科の時間	行事等	家庭・地域との連携	諸活動
4月	「よく聞いて、 じこしょうかい」 「きつつきの商売」			1年生を むかえる会	○家庭訪問 ○奉仕作業 ○授業参観 ○家読りレレー	○きらりカード ○読書活動 ○縦割り清掃 ○「えがおつなごう二本松」活動 ○係活動 ○ありがとこの時間 ○集団登校 ○学級会 ○集会活動
5月	「もっと知りたい、 友だちのこと」					
6月	「気持ちをこめて きてください」 「まいごのかぎ」		真心をとどける 「フローレンス・ナイチンゲール 物語」 ねらい： 反省：			
7月						
1学期を振り返って						
8月	「わたしと小鳥とすずと」			水泳記録会	○家庭訪問 ○奉仕作業 ○授業参観 ○学校へ行こう週間 ○学年行事 ○家読りレレー ○石井地区の伝統文化調べ	
9月	「ちいちゃんのかげおくり」					
10月				運動会		
11月	「三年とうげ」		言われたときの心 「ぽかぽか言葉」 ねらい： 反省：	マラソン 大会		
12月						
2学期を振り返って						
1月	「つたわる言葉で表そう」				○家庭訪問 ○奉仕作業 ○授業参観 ○家読りレレー	
2月				なわとび 記録会		
3月	「モチモチの木」		相手を思う心を形に 「メニューにない料理」 ねらい： 反省：	6年生を 送る会		
1年間を振り返って						

県中地区道徳教育推進校「浅川町立浅川小学校」実践報告書

1 学校紹介

学校名：浅川町立浅川小学校

校長名：草野正夫

＜教育目標＞

主体的に課題を解決し豊かな心をもった活力ある子ども

○進んで学習に取り組み、深く考える子ども

○思いやりの心を持ち、命を大切にする子ども

○健康で安全な生活を送り、体力の向上を目指す子ども



2 研究テーマ

道徳的価値に向き合い、共によりよく生きるために問い続ける子どもの育成
～自己を見つめ、多面的・多角的に考え、共に高め合う授業を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校の児童は、明るく元気で、素直であり、自分の思いや考えをもち、その思いを伝えることができる。また、学校のきまりやマナーをきちんと守って生活することができる。しかし、自分の思いだけを主張し、相手のことを考えた行動をしているとは言えない場面が見られたり、規範意識が低く、自己中心的な行動をしてしまったりする児童もいる。道徳科の授業においては、道徳的価値が大切なことは理解できるが、友達がよりよく実践していこうとする行動を揶揄する雰囲気をつくり出す児童や、それぞれの場面において善悪を判断する力自体が弱い児童もいるという実態である。

本校の徳に関する教育目標は「思いやりの心を持ち、命を大切にする子ども」である。今年度は重点目標を

時と場に応じて正しく判断し、望ましい行動ができる子ども
相手の立場を考え理解し、助け合うことができる子ども
よりよい学級や学校をつくるために、協力し合うことができる子ども

とした。この重点目標を達成するためには、学校・学級集団の中で他者と関わり、自他のよさや違いを認め、考え議論しながら、道徳的価値のよさに気付いたり、よりよく生きていくために、共に高め合おうとする心を養ったりしていくことが不可欠である。

本校の課題を克服していくためには、教育活動全体を通じて、児童が課題を自分事として捉え、自分の考えをもつ活動や自他のよさを認めていく活動を取り入れていく必要がある。また、教師と児童、児童と児童が対話する中で、児童が多様な価値観と出会い、その価値観のよさを理解し、時と場に応じて正しく判断し、望ましい行動をしようとする態度を育てる必要もある。これらの学びを通して、よりよく生きるために、道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを問い続ける児童を育成することで、本校の教育目標を具現化することにつながっていくものであると考えた。

4 研究の歩み

月 日（曜日）	主 な 研 究 内 容
4月13日（月）	推進委員会（研究の進め方の確認等）
5月 8日（金）	第1回現職教育全体協議会研究内容・組織・計画等の確認、決定
5月13日（水）	研究部会・各研究部による話し合い
5月14日（木）	先進校視察 南会津町立田島小学校 白河市立白河第三小学校

5月29日(金)	第2回現職教育全体協議会・各部会報告
6月18日(木)	授業研究Ⅰ及び第3回現職教育全体協議会「第3学年1組」授業者 原 智子 講師：福島県教育庁県中教育事務所 指導主事 田中 知 指導主事
6月23日(火)	小学校道徳科授業づくり講座
6月26日(金)	伝達講習(道徳科の授業づくりについて)
6月29日(月)	道徳アンケート、学級力アンケート(1回目)の実施と分析
7月 3日(金)	授業研究Ⅱ及び第4回現職教育全体協議会「第6学年2組」授業者 鈴木 文恵 提案授業及び講師：郡山市立行徳小学校長 荻野 由則 先生
7月15日～17日	授業参観(全学級道徳科公開)講師：県中教育事務所 田中 知 指導主事 浅川町教育委員会 渡邊 良一指導主事 平田村立小平小学校 渡邊 拓 先生
8月17日(月)	第5回現職教育全体及びブロック会・公開授業指導案検討
9月 4日(金)	高学年ブロック研究
9月 8日(火)	授業研究Ⅲ及び第6回現職教育全体協議会「第6学年2組」授業者 関 健治 提案授業及び講師：宇都宮大学准教授 和井内 良樹 様
9月30日(水)	石川地方学校教育指導員道徳科授業参観 小平小学校 渡邊 拓 先生
10月 1日(木)	低学年ブロック研究
10月 7日(水)	高学年ブロック研究及び第7回現職教育全体協議会 提案授業及び講師：福島県教育庁県中教育事務所 田中 知 指導主事
10月14日(水)	低・中学年ブロック研究・授業研究Ⅳ及び 第8回現職教育全体協議会「第1学年2組」授業者 吉成 美貴 講師：福島県教育庁義務教育課 肥沼 志帆 指導主事 福島県教育庁県中教育事務所 田中 知 指導主事
10月15日(木)	Q—Uの実施
11月 4日(水)	道徳教育地区別推進協議会(3学級公開) 低学年：第2学年2組 授業者 星 知子 講 師：福島県教育庁義務教育課 肥沼 志帆 指導主事 中学年：第4学年2組 授業者 渡部 亨 講 師：福島県教育庁県中教育事務所 田中 知 指導主事 高学年：第5学年2組 授業者 矢吹 大輔 講 師：宇都宮大学准教授 和井内 良樹 様
11月18日(水)	Q—Uの分析
12月 4日(金)	道徳科の評価についての研修
12月中旬	道徳アンケート(2回目)の実施と分析
12月23日(水)	第9回現職教育全体協議会(まとめについて)
1月 8日(金)	推進委員会(今年度反省について)
2月 5日(金)	第10回現職教育全体協議会(今年度反省と次年度計画について)
2月10日(水)	浅川教育の日 道徳科授業公開
2月15日(月)	第11回現職教育全体協議会「第5学年1組」授業者 板橋 優子 講師：秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 様
2月中旬	推進委員会(次年度の計画についての確認)
2月下旬	次年度の計画の提示

5 研究推進の成果と課題

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について

<作成上の工夫、配慮点>

- 道徳教育全体計画では、学校教育目標を受け道徳教育での重点目標から「善悪の判断・自律・自由と責任」「親切・思いやり」「感謝」「よりよい学校生活・集団生活の充実」の内容項目を重点とした。

<活用上の工夫点、配慮点>

- 別葉に各担任が追加修正点を書き込み、週案に綴ることで、日々の指導に生かすことができるようにする。
- 学級における道徳教育指導計画は、児童の実態や担任の願い等を基に作成し、学級経営誌に綴り、学期ごとに反省し重点目標の達成に生かすことができるようにする。

<別葉の活用>

重点内容項目について、関連する各教科の学習内容や地域や家庭との連携を明記し一覧表にした。そうすることで、担任が意識して指導できるようにするとともに、1年間の見通しをもって指導できるようにした。さらに、週案に挟み、日々活用できるようにした。（別葉参照）

成果（○）

- 教育活動との関連、保護者への働きかけを日常的に記入し、継続的な指導や見取りができるようにした。また、児童の実態や行事等で実施時期や教材に変更があったものを記録しておくことで、次年度の教育課程編成に生かせるようにした。行事と教科の関連が一目で分かるので、活用しやすかった。

【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について

- ① 課題を自分事として捉え、自分の考えをもつことができる子どもの育成に向けて
 - 「自分ならどうするか」等自分事として考える発問や活動の工夫。
 - 自分の考えを可視化するための思考ツールの活用。
 - 普段の生活と関連させた導入や終末の工夫。
- ② 互いのよさを認め合い、相手の立場に立って相手を理解することができる子どもの育成に向けて
 - 互いの考えを明確にするための思考ツールの活用と互いの考えを共有するための話合いの工夫。
 - 友達の考えのよさを認め合う振り返りの工夫。
- ③ 重点目標の具現化に向けて
 - 教育活動全体での子どもの見取りと価値付け。生徒指導会議等での職員同士の共有。
 - 全校的に互いのよさに触れることができるようにするための掲示の工夫。
「道徳コーナー」「思いやりの木」「あさかわセブン」「あさまる～十（とお）のちかい～」

互いの考えを明確にするための思考ツールの活用について

成果（○）と課題（●）

- 導入で、身の回りに起きている出来事を話題にしたり、アンケート結果を提示したりしたことで、その価値について自分事として捉えさせることができた。
- 教材文を読む前に、場面の挿絵を提示しながら概要を説明した後に教材文を読むことで、児童が教材文の内容を理解しやすくなった。そのことで、登場人物をより身近に感じさせることができた。
- 思考ツールを活用し、児童の気持ちを可視化したことで、友達の考えに興味をもたせたり、互いの考えを共有させたりすることができた。
- 思考ツールを活用したことで、自分の考えと友達の考えを比べさせたり、考えの変容を捉えさせたりすることができた。
- 児童用マグネットの色を2種類用意したことで、教師、児童ともに考えの変容が捉えやすくなった。
- 思考ツールを活用するよさはあるが、活用の方法や内容を厳選する必要がある。なぜ考えが変わったの



か、その理由について考えさせることで、より考えを深めることができるのではないか。

- 心のものさしであり、行動のものさしではない。また、考えの変容を捉えさせやすい反面、考えが偏ってしまう場合もある。自分の考えを明確にしてから、黒板にネームプレートを掲示させるなど、手順も大切になる。

【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳教材」の活用について

① 「ふくしま道徳教育資料集」と「あさかわまちが生んだ偉人」（町道徳学習資料）の活用について

- 「ふくしま道徳教育資料集」と「あさかわまちが生んだ偉人」教材の教育課程への位置付け。
- 「ふくしま道徳教育資料集」や「あさかわまちが生んだ偉人」の学級文庫への配当。

② 「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳教材」の活用について

- 「自分ならどうするか」等、自分事として捉えられるような教材提示や発問の工夫。
（県教育委員会作成動画教材の活用）
- 身近な問題に目を向け、考えさせる工夫。（新聞やニュース等の活用）

**「新型コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた道徳教材」の活用について
成果（○）**

- 身の回りに起きている出来事を話題にしたり、動画を視聴させたりしたことで、視覚的に捉えさせ、自分事として考える意識を持続させることができた。
- ペアトークやトリオトークを取り入れたことで、多くの児童に発言の機会をつくることができた。
- 授業の終末に、新聞記事を紹介したことで、身近に起きていることだと捉えさせることができた。

【視点4】児童一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

① 「児童がより多面的・多角的な見方に発展しているか」について

- 話し合いにおける思考ツール等の活用により児童の考えの変化を「見える化」する工夫。

② 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか」について

- 「自分ならどうするか」等、自分事として考える発問や活動の工夫。
- ワークシートの工夫や振り返りの時間の十分な確保。

児童一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

成果（○）と課題（●）

- 教師が考えをつないだり、広げたりすることで、自分とは違った考えでも共感できることを見つけた。り、多様な考えを理解したりする児童が増えてきた。
- 友達の意見に対して、「いい考えだね。」「～の考えと同じ。」と児童同士で肯定的に受け止める姿が見られるようになり、様々な考え方を受け入れる素地ができてきた。
- 考えを児童同士で交流する時間を設けたことで、お互いの考えを共有させることができた。
- 「みんなだったらどうする？」など自分事として捉えさせるような問い返しや、「それはどういうこと？詳しく教えて？」などの切り返しの発問をしたことで、児童の考えを深めさせることができた。自分を振り返る時間の中でも、自分だったらどうするか、具体的な場面を自分なりにイメージして考える児童が増えてきた。
- 「〇〇さんの考え分かる？」と全体に投げかけたことで、自分とは違う考えも理解し、認めようとする児童が見られた。
- ワークシートに書かせる視点を精選することで、自分の考えを整理しやすくさせることができた。
- 自分を見つめ振り返る時間を確保したことで、しっかりと自分を見つめ、自分の価値観を明らかにすることができた。
- 今までの自分を点数化して自分を振り返らせたことで、自分を客観視しながら、これからの自分について深く考えさせることができた。
- 友達の考えのよさや自分の考えの深まりについて書かせたことで、自分自身との関わりについて深く考えさせることができた。
- 考えを共有させる方法や共有する時間を、きちんと確保していかなければならない。
- 思考ツールを活用することで、発表の意欲が高まったが、発表させる時間がなくなってしまう場面があ

った。授業の中で、どのように児童の発言の機会を設けていくかが課題である。

- 意図的指名や補助発問をさらに精選することで、振り返りの時間をしっかり確保する必要がある。
- 何について振り返らせるのか、本時のねらいを基に明確にしなければならない。
- 児童が価値に迫ることができていない場合や、捉え違いをしている場合の切り返しの発問を精選していく必要がある。
- 行動への反省だけで終わってしまう児童がいる。価値について、自分自身との関わりで考えを深めさせていくには、児童の考えを揺さぶる発問や問い返しがより重要になってくる。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

① 家庭との連携を生かした取組

- 学校だよりの発行。（学校での取組を伝える）
- 月に一度ワークシートを家庭に持ち帰り、家庭との共有。（道徳科の授業の様子を伝える）
- 授業参観や2月10日の「浅川教育の日」での道徳科授業公開。

② 児童クラブや地域との連携を生かした取組

- 児童クラブ指導員への意識調査。
- ゲストティーチャーの活用。（地域や保護者の方を招聘）
- 他教科との関連。（福祉施設への訪問など）

家庭・地域との連携を生かした取組について

<授業参観にて全学級道徳科の授業公開>



<学校での道徳科の取組を紹介した学校だよりで>



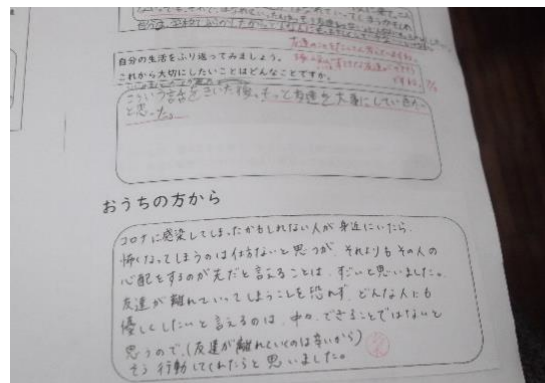
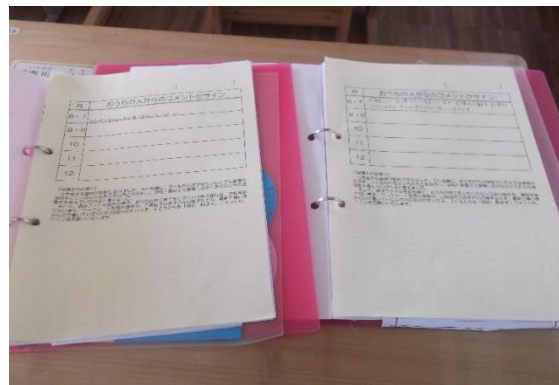
道徳の感想特集
またまた、前号に続いて道徳の内容となりました。たくさんの方の感想をお寄せ頂きありがとうございました。6年2組の「チャットのつゆやき」の感想は、授業後にワークシートを家庭に持ち帰って、保護者の皆様にご覧いただき、感想を書いていただく内容です。コロナの感染という課題について、親子で良い話し合いができたのではないかと思います。道徳の学習で使ったワークシート等を家庭に持ち帰ることがあります。是非、家族でも話し合ってください。今後ともよろしくお願いします。授業参観の感想では、子どもたちが一生懸命に道徳の内容について考え、発表している姿が伝わってきます。お忙しい中、来校頂きありがとうございました。

<7月3日の6年2組「チャットのつゆやき」のワークシートへの保護者のコメントから>

- 不安なのは皆同じ、相手の立場で物事を考えられるようになって安心しました。正しいと思う事は積極的に行動してほしいです。
- とてもよい授業ですね。人の意見を聞くうえで、自分でしっかり判断できるようになってほしいです。
- 自分の身にも起こりうる事なので、相手の気持ちを思いやる気持ちを養ってほしいと思います。
- 生きている限り、いつでも直面することです。今回の回答では、きちんとした判断が出来ると感じました。このまま悪い考えをもつことなく成長してください。（ただ、他の人が皆、同じ感じ方をしているとは思わないことです。）
- コロナに感染してしまったかもしれない人が身近にいたら、怖くなってしまふのは仕方ないと思うが、それよりもその人の心配をするのが先だと思えます。すごいと思いました。友達と離れてしまうことを恐れる、どんな人にも優しくしたいと言えるのは、中々できることではないと思うので（友達と離れていくのは辛いから）。
- 万が一自分だったら・・・と考えて、相手の立場に立った考え方で物事を考え行動・喜劇などを心がける。「いじめ・差別」が世界中の状況である事、コロナに関わらず人の立場で冷静に「人の事はSNSにあげない」が、偏つけない一番であると思います。この時期だからこそ、相手の気持ちを思いやる、自分の今までの振り返る機会であると思います。
- 目に見えないものから逃げ続けるような世の中になってしまいましたが、誰かが感染してもおかしくない状況で、自分で自分を守らなくてはならないストレスから、子どもたちも不安な毎日を送っていると聞きます。そのストレスから、いろいろなうわさ話や噂のような発言をしてしまう中にも中にはいると思います。自分がそうになったら？と常に考えて人の気持ちを考えられる人（思いやる心）になってほしいと思います。
- 日頃から対策をしていた人と自粛期間中にマスクもせず旅行していた人なら、正直感じ方は変わる。チャットにはまざらないけど、差別ではなく自衛をする。
- 今の世の中で、実際に身の回りでも起こりうることなので、その時どう対応するべきかきちんと考えられているようで安心しました。

<家庭との連携>

月一回道徳ファイルの持ち帰り



<その他の取組>

◎<板書写真>

教職員間で情報交換及び共有の場作り



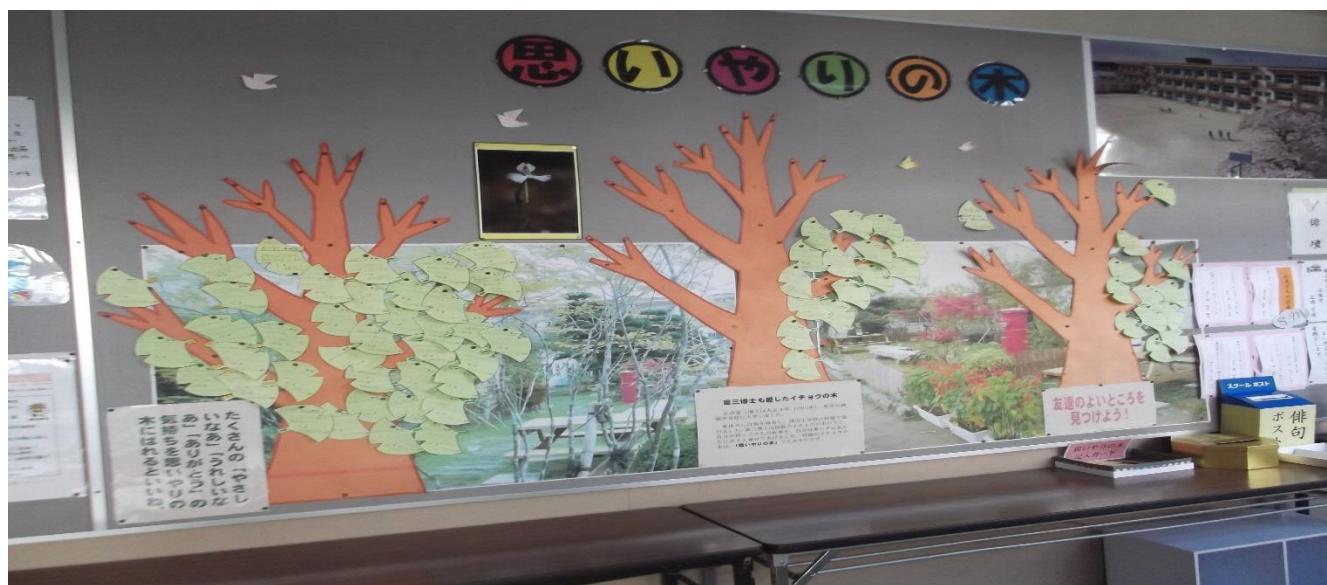
◎<カタルタ Time>

語りを遊びに変えるカタルタを使い、友達と話す楽しさや話をつなぐ楽しさを味わう活動



◎<思いやりの木>

全校的に互いのよさに触れる活動



6 研究を振り返って

本校では、講師の先生方をお招きし、全体研究やブロック研究を重ねてきた。コロナ禍の中、授業時数の確保や話し合い活動の制限等苦勞することもあった。しかし、道徳科で行いたいことができない中でも、「できることをしよう」と意識転換を図り、実践を重ねてきた。これらの実践により、児童一人一人が友達や教師との対話を通して、自分と同じであったり、違ったりする気持ちや考えに触れることで、道徳的価値のよさに気付くことができるようになってきた。また、友達を大切にしたり、友達の考えに真剣に耳を傾けたりする姿が見られるようになってきており、相互理解が高まってきている。しかし、実際の生活の場面となると、学習したことが生かしきれない場面も見られるが、道徳性は徐々に、確実に養われるものである。だからこそ、教育活動全体を通して、児童一人一人が道徳性を生かしながら、よりよく生活していくことができるように、全職員で児童の何気ない日常に目を向け、様々な場面で児童の姿を見取り、共有していかなければならない。そして、これからも、児童一人一人と道徳的価値に向き合い、共によりよく生きるために問い続けていきたい。

令和2年度 道徳教育全体計画

浅川町立浅川小学校

日本国憲法
教育基本法
学校教育法等の諸法規
いじめ防止対策推進法
学習指導要領など

時代・社会の要請
高い倫理観をもち、人としての
生き方や社会の在り方について、
自ら感じ、考え、他者と対話し協
働しながら、よりよい方向を目指
す資質・能力を育成すること。

各教科における道徳教育	
国語	思考力や想像力を養うこと、及び言語感覚を豊かにする活動を通して、道徳的心情や道徳的判断力を養う。
社会	地域や我が国の伝統文化を理解し、それらを尊重する態度や公民的資質・能力の基礎を養う。
算数	見通しをもち、筋道を立てて考え、数理的に処理する力を養うとともに、工夫して生活をよりよくしようとする態度を育てる。
理科	見通しをもった観察・実験などの活動を通して、問題解決能力や道徳的判断力を養う。
生活	自然や人とのかかわる活動を通して、生命を大切にしたり、生活を豊かにしたりするための能力を育てる。
音楽	表現、鑑賞活動を通して、音楽に対する感性を育て、美しいものを尊重する心や豊かな情操を養う。
図工	造形的な創造活動を通して、表現する喜びを味わい、自他の個性を感じとり、協力し合って活動する態度を育てる。
家庭	家族の一員としての役割を認識し、家庭生活向上への実践意欲や、家族を大切にしようとする心情を養う。
体育	健康・安全についての理解し、自己の課題に向けて運動したり仲間との関わりを大切にしたりする態度を養う。
外国語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学校教育目標
主体的に課題を解決し
豊かな心をもった 活力ある子ども
・進んで学習に取り組み、深く考える子ども
・思いやりの心をもち、命を大切に子ども
・健康で安全な生活を送り、体力の向上を目指す子ども

道徳教育の重点目標
○ 時と場に応じて正しく判断し、望ましい行動ができる
○ 相手の立場を考え理解し、助け合うことができる
○ お世話になっている人々に感謝することができる
○ よりよい学級や学校をつくるために、協力し合うことができる

各学年の重点目標		
低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)
A 善悪の判断、自律、自由と責任 よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。 B 親切、思いやり 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	A 善悪の判断、自律、自由と責任 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。 C よりよい学校生活、集団生活の充実 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。	A 善悪の判断、自律、自由と責任 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。 B 感謝 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。 C よりよい学校生活、集団生活の充実 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。

道徳科の指導方針
道徳的価値に向き合い、
共にによりよく生きるために問い続ける子どもの育成
○ 自己を見つめ、多角的・多面的に考え、共に高め合う授業を実現するために、「読み物教材の登場人物への自我関与」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」などの指導法を取り入れる。
・導入・終末の工夫や発問の精選
・考えの可視化（思考ツールの活用）
・認め、励ます評価の工夫（ワークシートの累積）

外国語活動	言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
総合的な学習の時間	主体的に判断して粘り強く考え解決しようとしたり、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする資質・能力を育てる。
家庭・地域との連携	学校での取組を積極的に発信し、子どもの心を育てる共通の役割を担う者としての相互理解を図る。 ○ ゲストティーチャーの活用 ○ 授業参観・学校行事への招待 ○ 学校・学年便り等の発行 ○ 保護者等へのアンケート ○ 保護者と児童ワークシートの共有

児童の実態
・明朗快活で素直である。
・規範意識に個人差が見られる。
・自己中心的な児童が少なくない。

保護者・地域の願い
・思いやりのある子ども
・元気な挨拶いさづがでる子ども
・きまりを守ることができる子ども

教師の願い
・目標に向かって粘り強く努力できる子
・きまりを守ることの大切さを理解し、守ることができる子
・相手の立場に立って物事を考えることができる子
・互いに助け合って生きることの喜びを感じられる子

特別活動	
学級活動	話し合い活動や係活動を通して、学級生活の向上を図り、思いやりの心を持ち、望ましい人間関係を育てる。
児童会活動	学校生活の向上のための自発的、自治的な活動を通して、よりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる。
クラブ活動	共通の興味関心を追求する活動を通して、個性の伸長を図るとともに、自主的、実践的な態度を育てる。
学校行事	行事への自主的、積極的な参加を通して、集団の一員としての自覚を深め、道徳的な実践意欲を高める。

生徒指導
積極的な生徒指導を推進し、共感的な人間関係の育成と、いじめのない学校づくりに努める。
・Q-Uテスト
・生活アンケート

学校環境の整備
道徳教育に関する掲示や道徳的心情を醸成できる取組等、環境整備を図る。
○ 「道徳コーナー」「思いやりの木」の活用
○ あいさつ運動
○ 朝の自主清掃
○ 児童相互、教師と児童の豊かな言語環境の整備

太字：重点項目
赤：県資料
青：町資料

本校の重点目標	A 善悪の判断，自律，自由と責任 B 親切，思いやり・感謝 C よりよい学校生活，集団生活の充実
---------	--

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳	●友だち屋 B 友情，信頼 ●電話のおじぎ B 礼儀 ●ドンマイ！ ドンマイ！ B 相互理解，寛容	●千ばづる A 正直，誠実 ●目をさますたね D 自然愛護 ●清作のおてつだい C 家族愛，家庭生活の充実	●心の優先席 C 規則の尊重 ●はた・らく C 勤労，公共の精神 ●わたしのしたこと B 親切，思いやり	●いのちのまつり D 生命の尊さ ●いただきます D 生命の尊さ ●キツネおどり C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度		●うわさ話・つらい気持ち A 善悪の判断，自律，自由と責任 ●世界一うつくしい体そうをめざしてー内村航平ー A 個性の伸長 ●ないた赤おに B 友情，信頼 ●郷土かるた C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	●こまるのはだれ？これでいいのかな？ C 規則の尊重 ●みんなで作ろう！がっきゅうルールブック C 規則の尊重 ●ぼくらは小さなかにはかせ A 希望と勇気，努力と強い意志 【資料:研究は根気だ】 ●わたしだって	●花さき山 D 感動，畏敬の念 ●思い切って置たらどうなるの？ A 善悪の判断，自律，自由と責任 ●いちようの木をまもるために C よりよい学校生活，集団生活の充実 ◆クリスマスのおくりもの（県） B 感謝	●お母さん， かげでねこむ 一ちびまる子ちゃんー C 家族愛，家庭生活の充実 ●生きたれいぎ B 礼儀	●太郎のいどう教室 A 節度，節制 ●おばあちゃんのおせち B 感謝 ●四人五きやく C よりよい学校生活，集団生活の充実	●きょうりよくクラス B 友情，信頼 ●やくそくだもん C 規則の尊重 ●お日さまの心で C 公正，公平，社会正義 ●赤い灯 ゆれろ B 友情，信頼	●うみねことたんぽぽ D 生命の尊さ ●海をわたるランドセル C 国際理解，国際親善
各教科	社会 ●わたしのまち みんなのまち C よりよい学校生活，集団生活の充実 音楽 ●音楽で心をつなげよう C よりよい学校生活，集団生活の充実	国語 ●きちんとつたえるために B 親切，思いやり 図画工作 ●ねん土ランドへようこそ C よりよい学校生活，集団生活の充実 体育 ●体ほぐしの運動 C よりよい学校生活，集団生活の充実	社会 ●はたらく人とわたしたちのくらし B 親切，思いやり 音楽 ●拍にのってリズムをかんじとろう C よりよい学校生活，集団生活の充実	国語 ●仕事のくふう，見つけたよ A 善悪の判断，自律，自由と責任 図画工作 ●あみあみ大さくせん C よりよい学校生活，集団生活の充実	総合 ●大先ばいとふれ合う B 感謝	算数 ●まるい形を調べよう B 親切，思いやり	国語 ●はんで意見をまとめよう C よりよい学校生活，集団生活の充実	図画工作 ●トントンくぎ打ち、コンコンビー玉 C よりよい学校生活，集団生活の充実		国語 ●つたわる言葉で表そう B 親切，思いやり	国語 ●わたしたちの学校じまん C よりよい学校生活，集団生活の充実 算数 ●わかりやすく整理して表そう C よりよい学校生活，集団生活の充実 総合 ●6年生を送る会を成功させよう	国語 ●モチモチの木 A 善悪の判断，自律，自由と責任 図画工作 ●みんなでオン・ステージ C よりよい学校生活，集団生活の充実
特別活動	学活 ●「学級の係を決めよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実	学活 ●「学級のめあてを話し合おう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実 児童会 ●JRC結団式 A 善悪の判断，自律，自由と責任	学活 ●「学級の問題について話し合おう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実	学活 ●「学級集会をしよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実	学活 ●「係の反省をして、新しい係を決めよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実		学活 ●「係や当番の活動を活発にしよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実	学活 ●「学級の問題について話し合おう」 ●「学級集会をしよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実		学活 ●「係の反省をして、新しい係を決めよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実	学活 ●「命のはじまり」 B 感謝 児童会 ●6年生を送る会 B 感謝	学活 ●「学級集会をしよう」 C よりよい学校生活，集団生活の充実
主な学校行事，家庭・地域連携	始業式 入学式 交通安全教室 授業参観	避難訓練 運動会 プール開き 家庭訪問	内科検診 防犯教室 修学・学習旅行 宿泊学習	授業参観 第1学期終業式	第2学期始業式 水泳記録会	授業参観 交通安全教室	音楽発表会	マラソン大会 授業参観 避難訓練	教育相談 第2学期終業式	第3学期始業式 なわとび記録会	授業参観 （浅川教育の日）	修了式 卒業式
備考												

県南地区道徳教育推進校「白河市立小田川小学校」実践報告書

1 学校紹介

学 校 名	白河市立小田川小学校
所 在 地	白河市泉田池ノ上239番地
校 長 名	大内 利典
教 育 目 標	自ら気付き、考え、行動する 心豊かでたくましい子ども
学級及び児童数	学級数 6 児童数 71名



2 研究テーマ

「自ら気付き、考え、行動する子どもの育成」
—自分の考えを持ち、自己を見つめ、多面的・多角的に考えることができる道徳科の授業を通して—

3 研究テーマ設定の理由

本校は、1学級16人以下の小規模校で、子ども達はいへん素直で明るく、運動にも進んで取り組む元気な子が多い。クラスだけでなく、全校生がとても仲がよく、友だちの間違いを笑ったり冷やかしたりする子はほとんどいない。また、教師が課題を与えるとそれに向かってがんばる子が多い。しかし、その反面、自ら課題を見つけたり、気付いて自主的に行動したり、創意工夫をして更によりよく変えていこうと考えたりする面においては、課題がある。

このような子ども達の実態から、道徳科の授業においても、課題に対して自分なりの考えを持って友達との話し合いをすることを通して、一面的な見方から多面的・多角的な見方ができるようになるのではないかと考えた。さらに、多様な感じ方や考え方との出会いにより、これまでの自己を見つめ直したり、自分の変容に気付いたりすることで、よりよく生きるにはどうすればよいか考えることができるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

4 研究のあゆみ

月日（曜日）	主な研究内容
4月10日（金）	現職教育全体会 今年度の学力向上の進め方の確認
4月16日（木）	道徳教育全体計画、5つの視点を踏まえた本校の手立て
4月24日（金）	別葉1、別葉2、道徳科学習指導案の形式についての検討
4月28日（火）	研究主題、副主題の確認
5月22日（金）	目指す子どものとらえ方、研究組織、アンケートについて
6月 9日（火）	校内研修 第1回授業研究・事後研究会6年
6月19日（金）	校内研修 第2回授業研究・事後研究会3年
7月 6日（月）	校内研修 第3回授業研究・事後研究会4年
10月 2日（金）	校内研修 第4回授業研究・事後研究会2年 指導助言 福島県教育庁義務教育課 指導主事 肥沼 志帆
10月14日（水）	校内研修 第5回授業研究・事後研究会5年 指導助言 福島県教育庁県南教育事務所学校教育課 指導主事 本多 正典
11月 6日（金）	校内研修 第6回授業研究・事後研究会1年
11月24日（火）	公開授業 道徳教育地区別推進協議会2・5年 講 演 秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 様
12月～2月	研究のまとめの作成・アンケートの分析

5 研究推進の成果と課題

【視点1】 道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

- 全体計画については、児童の実態、保護者・教師の願い等から、学校としての重点目標を明確にし、各学年の重点目標と重点内容項目が分かるよう作成した。
- 別葉は、年間を通した月別の実施計画と共に学校行事・特別活動・総合的な学習の時間・各教科との関連性が見える形式のもの（別葉1）と、各学年の重点内容項目が分かるもの（別葉2「小田川リーフ」）の2種類を作成した。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

- 別葉2「小田川リーフ」は週案に綴じ、重点内容項目における子どもの変容を見取ることができるよう、反省や気付いた点を記録できるようにすることで、次の指導へ生かせるよう工夫した。

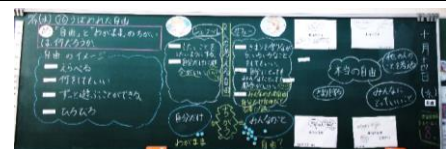
【視点2】 質の高い多様な指導方法への取り組み

- 心情スケール（心の物差し）を活用し可視化できるようにしたことで、自分と友達の考えを比較したり、客観的にとらえたりすることができた。また、これまでの自分の生活を振り返る授業の導入場面と、教材と出会い話し合った後、自分ならどうするか考えたり、これからどうしたいかを考えたりする授業の終末の場面の2つの場面において心情スケールを活用したことで、自分自身や友達の考えの違いや変化に気付くことにつながった。
- 心情スケールを活用する際には、両端だけでなく、両端に近い考えや迷っていてちょうど真ん中の考えなど、心情スケールのどこでも自由にネームプレートを置くことを認めた。話し合いの際に自分が置いた理由をより具体的な言葉で説明することにつながるとともに、いろいろな考えがあることに気付き、多面的・多角的に考えることにつながった。
- 授業の展開において、動作化や役割演技を取り入れて、自分の考えを表現させたことで、自分事として考えることができた。また、自分と友達の考えを比較したり、友達の考えのよさを認めたりすることができた。
- 隣同士、ペア、グループ、全体と、ねらいを達成するために効果的な話し合いの学習形態を意図的に設定したことで、話し合いが活発になった。その一方で、うまく児童の考えを引き出せない発問をしてしまうことや、話し合いをコーディネートできないことがあった。さらに児童の主体的な学びを実現するために、今後も引き続き、他者と対話したり協働したりできる授業展開を工夫していきたい。



【視点4】 一人一人を受け止めて認め、励ます評価

- 毎時間の子どもの見取りと、長期的なからの見取りを蓄積したことで、児童一人一人や学級全体の実態を把握し、次の指導へとつなげることができた。毎時間の学習状況は、心情スケール等を活用した板書や授業での話し合いの姿、道徳ノートや振り返りカード等で見取り、これを累積することで、大くくりな評価として、学習状況を捉えることができるようにした。
- 道徳科の授業だけでなく、学校行事や他教科、学校生活全体を通して、友だちのがんばりやよりよい姿を認めることができる場を設けたり、環境を整備したりしたことで、認められているという満足感が得られ、自信を持って行動できる児童が増えた。



- 振り返りの際、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、自己を見つめた思いを道徳ノートに表現したり、友達に伝えたりすることができるよう今後も継続指導していく。

6 研究を振り返って

- 年度初めに研究組織を作る際に、全職員一人一人を生かした全員参加型としたことで、組織的・計画的に研究を進めることができた。
- 事前研究会や事後研究会だけでなく、日常の職員室内でも道徳科の授業について話題にし、授業について語り合うことが増えた。第1回～第6回の授業研究会では、課題を踏まえて次の授業を行うことを積み上げた結果、後半になるにつれて授業改善が進むと共に、全員の授業改善を図ることができた。また、道徳科の授業研究を通して、他教科等の指導にも生かすことができた。
- 児童の実態、保護者・教師の願い等から、学校としての重点目標を明確にし、各学年の重点目標と重点内容項目が分かるよう別葉を作成した。年間を通した月別の実施計画と各教科・領域・学校行事等との関連性が見える形式のもの（別葉1）と、各学年の重点内容項目が分かるもの（別葉2「小田川リーフ」）の2種類を作成したことで、関連を図り、具体的な指導計画を立てることができた。
- 児童が揺さぶられるような発問や、ねらいにせまる発問ができず、話し合いが深まらなかったり、多面的・多角的に考えることにつながらなかったりすることがあった。中心発問を軸に、発問の精選を今後行っていきたい。

令和2年度 道徳教育全体計画
学校教育目標

白河市立小田川小学校

日本国憲法等関係法令
・いじめ防止対策推進法

白河市教育大綱

- 1 郷土を知り、郷土を愛する人
- 2 幅広い文化、・芸術に親しむ人
- 3 自ら学び、自らを高める人
- 4 自ら判断し、自ら行動する人
- 5 礼儀正しく、思いやりの心を持つ人
- 6 自然を敬い、自然を大切にすること人
- 7 健やかな体を育む人
- 8 世界にはばたく高い志を持つ人

自ら気付き、考え、行動する、
心豊かでたくましい子ども

自ら進んで学び、確かな学力を身に付けた子ども (知)
人を思いやり、優しく接することができる子ども (徳)
健康や安全に関心を持ち、たくましく生きる子ども (体)

道徳教育重点目標

「生き生きと活動し、豊かな心を持つ児童」

道徳教育でめざす児童像（評価）

1. 他人を思いやり、ともに伸びる児童
2. 自他の生命を尊重し、お互いの人間的良さ、個性を認め合える児童
3. 自分の目標達成に向けて、くじけずに元気に頑張る児童
4. 約束やきまりを守り、学校や社会のために尽くそうとする児童

教師の願い

1. 自ら学ぶ子ども
2. 思いやりのある子ども

保護者の願い

1. 健康な子ども
2. 思いやりのある子ども

児童の実態（課題）

1. 素直で指示されたことは一生懸命やることができる。
2. 自主性や判断力・行動力が不足している。
3. 物事を最後までやり遂げる根気が不足している。

特 別 活 動

学級活動：学級生活の充実と向上を図り、健康で安全な生活をしようとする態度を養う。
児童会活動：学校生活の充実と向上のために諸問題を話し合い、協力して解決する活動を通して、集団の一員としての自覚や協力的態度を養う。
クラブ活動：共通の興味や関心をもつ異学年の集団活動を通して、仲よく粘り強く取り組む態度を養う。
学校行事：様々な体験的活動（豊かな体験）を通して、内面に根ざした道徳性を養う。

総合的な学習の時間

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を養う。

学年の重点目標（R2年度）

低 学 年	中 学 年	高 学 年
1 気持ちのよい挨拶など基本的な生活習慣を身につけようとする態度を養う。 2 友達と仲良くし、助け合おうとする態度を養う。 3 生きる物すべてに生命があることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育てる。 4 みんなで使う物を大切にし、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。	1 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を養う。 2 友だちを思いやり互いに信頼して助け合おうとする態度を養う。 3 生命の尊さを知り、命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 4 約束や社会のきまり、規則や公德を守り、社会のためになることをしようとする態度を養う。	1 節度節制を心がけ自律的で責任のある態度を養う。 2 互いに信頼し、学びあつて友情を深め、相手の立場を理解し支え合う態度を養う。 3 生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。 4 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を養う。
＜重点内容項目＞ A◎正直・誠実、節度・節制 B◎親切、思いやり C◎規則の尊重 D◎生命の尊さ		

総合単元的な道徳学習

各 教 科 等

国語：豊かな言語活動を養い、のびのび表現する態度を養う。
社会：様々な仕事や人々とのかわりを知り、社会の一員として協力する態度を育てる。
算数：数理的に処理する良さを知り、進んで日常生活に生かそうとする態度を育てる。
理科：自然に親しみ、自然や動植物を大切にすることを育てる。
生活：具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付け自立への基礎を養う。
音楽：音楽を愛する心情と感性を育て、豊かな情操を養う。
図工：美しいものを表現したり鑑賞したりすることによって、創造性や豊かな情操を養う。
家庭：家庭生活についての理解を深め、家族の一員としての自覚を深める。
体育：互いに協力し、励まし合いながら運動することを通して、最後までやり通す態度を育てる。
外国語：異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める。

特別の教科 道徳

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

別葉の
作成・活用

ふくしま道徳教育資料集
の活用

生徒指導	豊かな体験	環境の充実・整備	その他の活動
基本的な生活習慣や礼儀作法を身につけ、楽しい学校生活を送る態度を育てる。 ・ 月ごとに生活のめあてを設定する。 ・ 生徒指導便りで共通理解を図る。 ・ 生徒指導協議会を設けて情報交換をする。	豊かな体験を通して学校や地域に対する愛着を育てる。 ・ 緑の少年団活動：栽培活動等の活動を通して、自然や地域を大切にしようとする心を育てる。 ・ マチガ活動：豊かな情操を養うとともにマチガを大切にしようとする心を育てる。 ・ 地域に根ざした活動 ・ 本校の特性を生かした活動	人間関係の充実、校舎・校庭や教室の整備を通して豊かな心を育てる。 ・ 個を生かす場を設定する。 ・ 教育、自然、言語環境を整備する。	保健安全教育：生命の尊重と性指導、歯磨き指導、清潔検査の活用、集団登校と一斉下校 ・ 創意活動：地域の自然や文化に親しむ体験的活動 体育的な活動 等の体力増進のための活動 音楽活動や造形活動 など 情操を豊かにする活動 国際理解と郷土教育に関する活動 栽培や環境美化等勤労生産的な活動 教育相談に関する活動 ・ 食育指導：食事のマナー、栄養指導 ・ 清掃活動：縦割り清掃、奉仕活動

家庭・地域との連携

1. 学校便り、学級便りに児童の作文や授業で用いた資料などを載せることで児童の活動の姿を積極的に発信する。
2. 運動会、親と子の集い、ひなまつり餅つき会、授業参観、学習発表会等で児童の様子を見てもらう場を持つ。
3. PTA総会、学年懇談会等で保護者と話し合いをする場を持つ。
4. 地域コーディネーターと連携し、地域の人材を積極的に活用する。
5. 道徳の授業を授業参観で公開する。

適切な評価

1. 各価値の内容ごとではなく、おおくりなまとまりを踏まえた評価をする。（道徳ノート）
2. 児童がいかに成長したかを認め、励ます個人内評価として行う。（道徳ノート・キャリアパスポート等）
3. 学習活動において児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかを重視する。（道徳ノート・各教科の振り返りカード）
4. 日常的に行動の評価を実施して、通知票や個別懇談によって保護者に伝える。（各教科の振り返りカード・アンケート等）

小田川リレー

第6学年

節度節制 善悪の判断

道徳科授業

実施月 1学期：6月

主題名 「弱い心」をコントロール 教材名 本当にだいじょうぶ？

ねらい ○安全に気をつけることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけようとする。

反省

1学期：国語「天地の文」

反省：

6月 保健体育「病気のよぼう」

反省：

実施月 2学期：11月

主題名 情報モラル 教材名 グループ外し

ねらい ○相手と対面しないSNSの世界においても相手の気持ちを考えることの大切さが分かり自律的に判断して行動しようとする。

反省

11月家庭科「工夫しようおいしい食事」

反省：

11月 学級活動「携帯電話の使い方」

反省：

実施月 3学期：1月

主題名 本当の自由 教材名 大空に飛び立つ鳥

ねらい ○ 本当の自由とは何かを理解し、規律ある行動を取ろうとする。

反省

1月 国語「メディアと人間社会」

反省：

求める子どもの姿

自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけること
自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動を取ること

会津地区道徳教育推進校「喜多方市立山都中学校」実践報告書

1 学校紹介

学 校 名	喜多方市立山都中学校
所 在 地	喜多方市山都町字上ノ原道西 8 7 5 番 地
校 長 名	佐藤 義和
教 育 目 標	地域に誇りを持ち、その発展 に貢献する社会の形成者とし ての生徒の育成 ○豊かな心を養う生徒 ○広く・深く学ぶ生徒 ○体を鍛える生徒
学級及び児 童生徒数	学 級 数 (4) 生 徒 数 (6 5) 名



2 研究テーマ これからを生きるための道徳性を育むにはどうすればよいか ～「考え、議論する道徳」の実践を通して～

3 研究テーマ設定の理由

各教科と同様に、道徳科において「道徳科の研究計画」を策定し、本校の教育目標である「豊かな心を養う生徒」の具現化を目指していく。そのためには生徒が「考え、議論する道徳」の授業を展開することが、「生きる力」の基盤となる「道徳性」を育むと考え、このテーマを設定した。

4 研究計画

月 日 (曜日)	主な研究内容	授業者
4 月	・ 研究主題、研究内容、意識調査等の検討	
5 月	・ 研究計画、指導案形式等の検討 ・ 生徒実態調査(事前アンケート)	
6 月 3 0 日 (火)	・ 第 1 回研究授業の実践・事後研 指導助言並びに道徳に関する講話 講師 毛内 嘉威 先生	半 澤
9 月 7 日 (月)	・ 第 2 回研究授業の実践・事後研 指導助言 福島県教育庁義務教育課 肥沼 志帆 指導主事	小 林
1 1 月 4 日 (水)	・ 第 3 回研究授業の実践・事後研(公開 2 授業) 指導助言並びに道徳に関する講話 講師 毛内 嘉威 先生	半 澤
1 1 月	・ 生徒実態調査(事後アンケート)生徒変容分析	
1 2 月	・ 研究のまとめ	

5 研究推進の成果と課題

【視点 1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮について
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 全体計画と別葉の作成については、他の教育活動との関連を全て網羅し細分化するのではなく、学級活動と総合的な学習の時間との関連に重点化することで、「別葉」の有効的な活用を図るようにした。 ○ 本校の重点目標の「礼儀」「思いやり・感謝の心情の育成」「生命の尊重」「理想の実現」については、学校行事や総合的な学習の時間、全校道徳、震災学習と関連させ、重点的に学習できるように工夫した。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

- 全体計画や別業については授業を実践するごとに確認し活用している。また成果や課題を空欄にメモすることで、次年度の教育課程の改善に活かせるようにした。

【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて

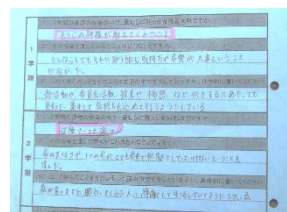
- 教職員をゲストティーチャーとして活用した。空き時間等を利用して内容項目についての方向性や展開の位置付け、時間配分などの打合せをスムーズに行うことができた。外部ゲストティーチャーの課題である授業のイメージの共有を容易に解決することができた。
- 担任以外の教師による道徳の授業を実践した。この授業が定着することで、校内職員によるゲストティーチャーを活用する時に、生徒が素直に受け入れやすい素地をつくることのできた。
- 複数の目で子どもを見取ることができるので、多角的、多面的な評価に役立てることができた。
- 担任外の教師の授業の内容項目を事前に計画調整することが必要である。



【1年 よりよく生きる喜び】
学年主任による授業

【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ワークシートには、授業に対する自己評価の項目を設け、毎時間授業を振り返る活動を継続してきた。また、生徒が書いた心情等に対して、朱書きでコメントし、生徒の心の変容や考えの深まりを認め、評価につなげるようにした。
- ワークシートは、道徳ノートに貼り、自分自身の振り返りや、評価に活かせるようにした。
- 毎時間のワークシート、「振り返りシート」、話し合い、発言や年2回実施するアンケート等から生徒一人一人の学習状況や成長の様子を捉え、記述により通知票などで生徒、家庭に返した。
- 発表や話し合いなど、他者との対話の場面で生徒を見取り、的確に評価していきたい。生徒自己評価に加え、評価手段を工夫して、生徒一人一人の良さを評価していきたい。



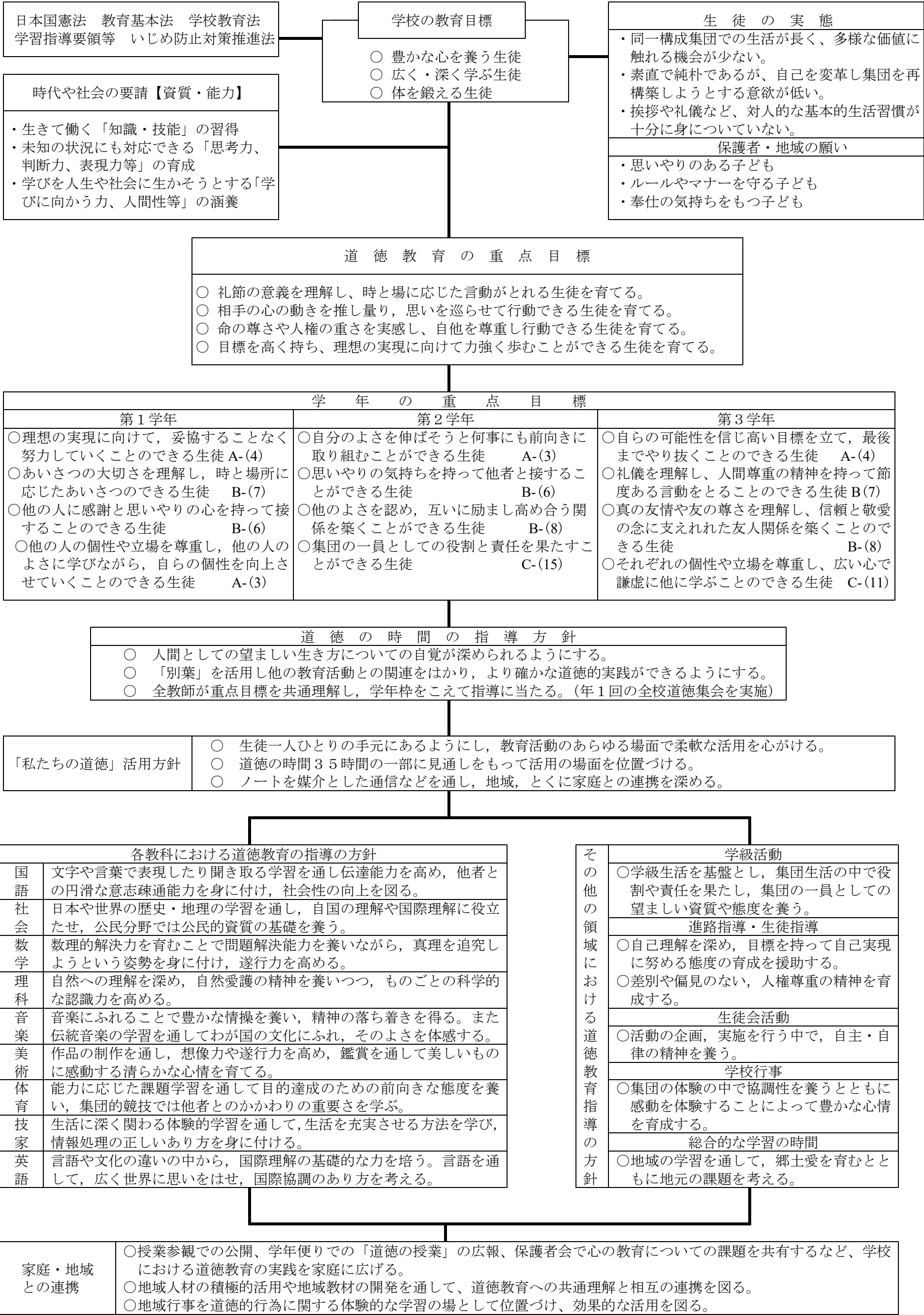
【振り返りシート】

6 研究を振り返って

- 全職員が道徳の授業に参加することにより、「道徳教育」に対する意識が高まった。また、授業のアイディアの発掘や共有、伝達などに有効に働いた。
- 道徳科の授業研究で協働してきたことを他教科の授業に反映することができた。
- 内容項目について多面的、多角的に考えるためには、生徒が主体的に考えることが大切である。そのためには、教材の道徳的価値の問題場面を「自分事」として考えさせることに留意することが必要であることを再確認することができた。
- 発問計画を考える時は、教師が生徒に対して何について考えさせるのかを明確にすることが大切であることを再認識できた。また、生徒が既に持っている各自の道徳的価値観をまず明確にすることが大切で、それをはっきりさせなければ、結果として生徒各自の価値観に揺さぶりをかけることができず、自分事として考えることが難しくなってしまう。そのためには、教師と生徒が本音で「共に語り合うこと」が一番重要であることが分かった。
- 本研究の一番の収穫は、1教科1担任の小さな学校でも、「道徳なら話し合える。協働できる。」という『同僚性』を高めることができたことである。

道徳教育全体計画

喜多方市立山都中学校



道徳教育全体計画「別葉」

喜多方市立山都中学校

【第2学年】

	学校行事等	道徳（内容項目）	学級活動	総合的な学習
4	始業式 入学式 山都中ガイダンス 身体測定 生徒会入会式 避難訓練	B-(7) 礼儀 ・礼儀作法の意義に気付き 形に表していこうとする態 度を養う	中堅学年になって① 学級作りをしよう①	
5	中体連壮行会 支部中体連陸上大会	A-(4)希望と勇気、克己と強 い意志・目標に向かって努 力する態度を養う	働くことの目的と意義③ 健康と体力の増進②	ガイダンス 職業講話
6	支部中体連総合大会 P奉仕作業 <u>救急救命講習会</u>	B-(8)友情、信頼 ・本当の友達をつくろうと する態度を育てる 命を見つめる授業	職業と産業③ 職業の内容と特色③ テスト計画を立てよう③	職場体験先決定 活動計画作成
7	生徒会球技大会 終業式	C-(16)郷土を愛する態度 ・地域社会の一員としての 自覚をもつ	球技大会を計画しよう① 豊かな夏休みにしよう③	履歴書作成 体験学習最終確認
8	そばまき 始業式 親子奉仕作業			職場体験学習
9	資源回収 避難訓練 生徒会役員改選 新人大会壮行会 新人大会 学習旅行	B-(6)思いやり、感謝 ・他人を思いやり、感謝の 心情を育む ※ 全校道徳	生徒会活動を考えよう① テスト計画を立てよう③	職場体験まとめ 職場体験礼状作成 学習旅行
10	定期テスト 文化祭 校内駅伝大会		文化祭を成功させよう① 高校の特色を知ろう③	文化祭準備 職場体験の発表 文化祭反省
11	道徳研修会 高校説明会 三者相談 雪囲い 定期テスト	A-(3)個性の伸長 ・お互いの個性を認め合う 態度を育てる ※ 全校道徳	高校の特色を知ろう③ テスト計画を立てよう③	
12	そば学習 放射線教育 終業式		冬休みを充実させよう③	そば学習
1	始業式	c -(12)社会参画、公共の精 神 ・よりよい社会を生み出す 実践意欲を養う	新年の抱負を語ろう②	修学旅行の計画
2	除雪ボランティア 定期テスト 生徒会総会 3年生を送る会	c -(17)伝統文化の尊重 ・伝統文化への理解を深め る	自分の適正を考えよう③ 自分の特色と進路③ 送る会を成功させよう①	修学旅行の計画 権現太鼓の練習
3	震災学習 卒業式 修了式	D-(19)生命の尊重 ・自他の生命を尊重する態 度を育てる	進路計画の検討と吟味③ 1年間を振り返ろう③	卒業式に向けて 修学旅行の計画

南会津地区道德教育推進校「檜枝岐村立檜枝岐小中学校」実践報告書

1 学校紹介

本校は、福島県の西南端に位置する檜枝岐村にある全校児童生徒38名の小規模校である。小中一貫教育をスタートさせて9年目を迎えた。本村では中学生が「15歳の春」を迎えると高校進学のために村を巣立っていかねばならないため、9年間を見通した小中一貫教育を推進している。また、豊かな自然を生かした郷土愛を育む体験活動やICT活用にも力を入れながら「郷土を愛し、夢に向かって学び続ける子ども」の育成を目指し、教育活動を推進している。



2 研究テーマ

自ら伸びようとする児童生徒の育成
～少人数教育・小中一貫教育を活かして～

3 研究テーマ設定の理由

本校では中学生が「15歳の春」（中学校卒業時）を迎えると、高校進学のために村を巣立っていかねばならない。そのため、9年間を見通した小中一貫教育を推進し、中学校を卒業するまでに、常に探究心をもって学び続け、誠実でよい行いをしようとし、何事もあきらめずに心や体を鍛えようとする児童生徒の育成を目指している。

本校児童生徒は、合同での行事や小学生から中学生までの縦割り班（ファミリー班）活動などを通して、絆を深め、互いに支え合って行動する姿が多く見られる。その一方、「指示待ち（自分の考えを創意工夫して実行する姿が乏しい）」や「なれ合い（少人数のため、以前からの決まった人間関係の中での自他への甘えがある）」の様子が見られ、自ら考え、判断し、実践していく力に欠ける課題がある。

これらの内容を踏まえ、少人数教育と小中一貫教育のよさを活かし、「特別の教科 道德」を柱として学校の教育活動全体を通じて道德教育を進め、自ら考え、判断する場面を多く設定し、それを認め励ましていくことでいくことで、自ら伸びようとする（自ら夢や目標の達成に向かって努力しようとする）児童生徒を育てていきたいと考え、本研究テーマを設定した。

4 研究の歩み

- 5月 8日（金） 研究推進委員会（研究推進の方針及び全体計画素案の検討）
- 15日（金） 全体協議会（全体計画の協議他）
- 6月 5日（金） 全体協議会（各部会の報告、第1回授業研究会指導案検討会）
- 6月15日（月） 要請訪問（第1回道徳授業研究会）
- 8月25日（火） 全体協議会（第2回授業研究会指導案検討会）
- 9月30日（水） 要請訪問（第2回道徳授業研究会）
- 10月 9日（金） 第3回授業研究会指導案検討会
- 11月26日（木） 道德教育地区別推進協議会（第3回道徳授業研究会）
- 12月 4日（金） 全体協議会（研究のまとめ）

5 研究推進の成果と課題

【視点1】道德教育全体計画及び別様の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

- 道德教育全体計画は、児童生徒の発達段階を考慮し、「基礎基本定着期（小1～小4）」「充実期（小5～中1）」「発展期（中2・3）」の3ブロックに分けて目標設定した。
- 別業は月別実施計画とともに小中の連携を踏まえ、学校行事や各教科との関連性が見えるように作製した。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

- 教職員全体で活用・修正できるよう、現職教育の場で検討する時間を設定した。

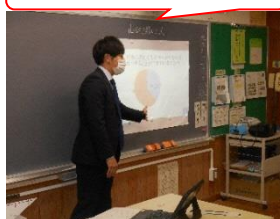
【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について

【① 事象に対して児童生徒一人一人に自分の考えを持たせる工夫】

○ アンケート結果の活用

事前にとったアンケート結果を提示し、自分の行動と比較させることで、課題を自分事としてとらえさせた。

アンケート結果の提示



課題意識を持たせる導入



○ 課題意識を持たせる導入

場面絵を提示するなどし、どんな展開になったのか見通しをもたせるなどして、短時間で学習意欲を喚起した。

【② 他者と考えを交流・共有し、様々な考えに触れる学習活動の工夫】

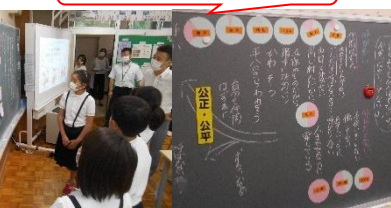
○ 場の工夫と考えの可視化

グループでの考えの交流は役割を担いつつ、発言の機会を確保しやすいトリオ学習を取り入れ、心のものさしや心情円グラフを活用し、互いの考えを可視化させたりして話し合いの活性化を図った。

心のものさし



心情円グラフの掲示



【③ 小中一貫教育を活かした取組】

○ 小中学校教員による互見授業

互見授業強化週間を設定し年間2回実施した。児童生徒の学びの姿だけでなく教師の発問やはたらきかけ、板書等を交流したことで指導力向上に繋げるためのヒントを得ることができた。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

【伝統文化を継承する地域の方をゲストティーチャーに迎えて】

○ 郷土の伝統と文化の尊重、郷土愛の育成をねらいとした中学3年道徳科授業

授業では、檜枝岐歌舞伎に取り組んできた自分自身と重ね合わせながら、資料の主人公の揺れ動く気持ちについて考え、深めることができた。また、歌舞伎指導者を講師に迎えて歌舞伎を受け継ごうとしたきっかけや理由、村にとっての歌舞伎の存在等の話を聞き、歌舞伎の存在や270年以上も村人に脈々と継承されている伝統文化の尊さについて思いを深めることができた。授業をより効果的に進めるためには、ゲストティーチャーとの詳細な打合せの時間を確保する必要がある。



歌舞伎継承者の思いを聞く

【授業参観における道徳科の授業公開】

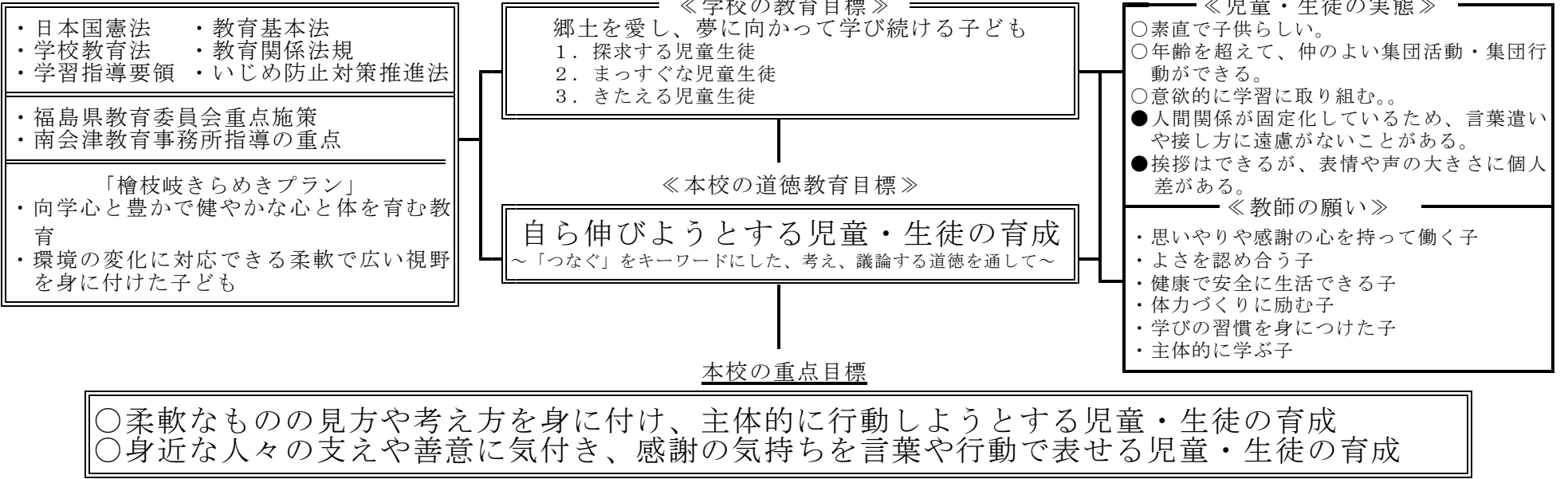
○ 年間に4回実施する授業参観において、全学年が必ず一度は道徳科授業を保護者に公開している。本校は、地域との結びつきが深く、父母だけでなく祖父母が来校している。考え、議論する道徳科授業を保護者や地域の方に公開することで、特別の教科 道徳 に対する理解を深める機会となっている。



保護者への道徳科授業の公開

6 研究を振り返って

- 一人一人に考えを持たせる手立てや自分の考えを交流・共有し、様々な考えに触れる学習活動等、質の高い多様な指導方法について取り組んできた。それにより、児童生徒は課題意識を持ち、自ら考え自らの意見を積極的に述べ、互いに交流し合うことができるようになった。研究テーマに設定した「自ら伸びようとする児童生徒」に迫る姿が表れてきている。
- 総合的な学習の時間や学校行事との関連を深めながら、ゲストティーチャーの活用、家庭や地域との連携など道徳科を柱としたカリキュラムマネジメントとして取り組んだことは、効果的な教育実践として成果が見られた。
- 今後は「議論する道徳」を通して深い学びに導き、ねらいを達成させたい。児童生徒が自分なりの納得解をもてる授業にするため、よりよい評価の在り方について更なる研究を進め、深めていきたい。



学 年 別 重 点 目 標		
基礎・基本定着期 小1～小4	充実期 小5～中1	発展期 中2～中3
周りの友達と協力しながら様々な活動に進んで参加し、多様な価値観があることを理解する。	諸活動に積極的に参加し、柔軟なものの見方を身に付け、主体的に行動しようとする態度を養う。	これまでの経験を生かし、仲間とともに自らの理想を追求しようとする自主的・自律的な態度を養う。
自生活が周囲の人々の支えによって成り立っていることに気付き、尊敬と感謝の念をもって接する態度を養う。	身近な人々の支えや善意を再認識し、感謝の気持ちを言葉や行動で表そうとする態度を養う。	様々な集団や社会の一員としての自覚をもち、潤いのある人間関係を築こうとする実践的態度を養う。
関連内容項目 (小1・2) (小3・4) ◎B－(7) ◎B－(7) ◎C－(12) ◎C－(13) ○B－(9) ○B－(9)	関連内容項目 (小5・6) (中) ◎B－(9) ◎B－(6) ◎C－(14) ◎C－(12) ○B－(10) ○B－(8)	関連内容項目 ◎B－(6) ○B－(9) ◎C－(12) ○C－(15) ○B－(8)
道 徳 の 時 間		
道徳教育の要として、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動など、学校のエデュケーション全体を通して行う道徳教育を補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚など、自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。特に本校では「少人数学級の特性」や「複式学級(学年差)の特性」を配慮し、児童・生徒一人一人が主体的にかかわる道徳の時間の指導の充実を図る。		
特別活動における道徳教育		家庭・地域社会との連携
集団や社会の一員としての自覚を深め、仲間と協力してよりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てる。		学校と家庭が共通理解のもと積極的に連携し、豊かな体験を通して児童の内面に根ざす道徳性の育成を図る。
学級活動	学級や学校生活を豊かにし、向上させるとともに、健康で安全な生活をしようとする態度を養う。	道徳の時間 事前調査、意見感想の依頼、事例紹介、授業及び指導内容のお知らせ、授業参観、学級懇談会
児童会・生徒会活動	児童会や生徒会において、協力し問題を解決する活動を通して、集団の一員としての自覚や自主的・自律的な態度を養う。	道徳的実践 「檜枝岐のよい子の一日」「24の力」の理解・協力、行事への参加
クラブ活動(小)	共通の興味・関心をもつ異学年の集団活動を通して仲良くねばり強く取り組む態度を養う。	P T A 協力事業 学年、地区、各委員会(厚生、文化、育成)の事業
学校行事	様々な体験活動(豊かな体験)を通して、協調性・連帯感・公共の精神などの道徳性を養う。	育成会活動 ソフトボール、バドミントン、スキー
部活動	自らの目標を目指し、仲間と励まし合いながら、希望と勇気をもって最後までやり抜く態度を養う。	広報活動 「学校だより」「学級だより」「PTA会報」
その他の教育活動		各教科・総合・外国語活動における道徳指導
豊かな体験		基礎的・基本的な内容の定着を図り一人一人に満足感や成就感を与え、意欲的に学習に取り組む児童の育成を図る。
豊かな体験を通して学校や地域に対する愛着を育てる。 ・尾瀬自然環境学習の実施 ・地域、学校交流の実施 ・「地域の名人」との交流学習 ・歌舞伎の伝承	生徒指導 基本的な生活習慣や礼儀作法を身に付け、楽しい学校生活を送る態度を育てる。 ・「24の力」の活用	国語 互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。
環境の充実・整備	道徳コーナー	社会 我が国の国土と歴史に関する理解を深め、郷土や国を愛する心情や公民的資質を育てる。
人間関係の充実、環境の整備を通して豊かな心を育てる。 ・個を生かす場の設定 ・言語環境の整備 ・物的、自然環境整備	道徳的価値のある写真や資料を定期的に紹介する。	算数・数学 日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え表現する能力を育てる。
現職教育との関連		理科 栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。
・「特別の教科 道徳」実施に向けたプロジェクトチーム(心力育成部) 年度始め 道徳教育関連の年間計画についての話し合い 2学期 心力育成部などによる授業提供・研修会の実施 3学期 今年度の反省		生活(小) 生活上必要な習慣を身に付け、自立への基礎を培う。
		音楽・図工・美術 音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。作り出す喜びを味わい、美しいものや崇高なものを尊重する心を育てる。
		技術・家庭 日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てる。
		保健体育 健康増進と体力向上を図り、明るく楽しい生活を営む態度を養う。
		英語・外国語・外国語活動 英語・外国語を通じて、言語や文化など、国際理解と人間愛について体験的に理解を深める。
		総合 体験的活動、問題解決的な学習を通して、道徳的価値の自覚を深め自己の生き方を考える態度を養う。

道徳教育全体計画(別業)小学校第6学年 [B年次] (令和2年度)

道徳教育目標			重点目標		
自ら伸びようとする児童・生徒の育成			○柔軟なものの見方や考え方を身に付け、主体的に行動しようとする児童・生徒の育成 ○身近な人々の支えや善意に気づき、感謝の気持ちを言葉や行動で表せる児童・生徒の育成		
	道徳		特別活動	各教科	関連活動・地域連携
	内容項目	教材名 ○は学年副読本	学校行事等		
4月 ③	B-(9)礼儀	⑤どろだらけのユニフォーム	始業式 入学式	「つないで、つないで一つのお話」(国) 「見つめてみよう生活時間」(家)	縦割り班清掃 授業参観
	C-(14)勤労、公共の精神	⑥マザー・テレサ	1年生を迎える会	「地域の保健活動」(保健)	
	A-(3)節度、節制	⑤ぬぎすてられたくつ	交通教室	「豊かな表現を求めて」(音) 「朝食から健康な1日の生活を」(家) 「想像する力」(図)	
5月 ③	B-(7)親切、思いやり	⑤落とし物	クリーン作戦	「演奏のみりよく」(音)	いもの植え付け
	C-(13)公正、公平、社会正義	⑥どれい解放の父リンカーン		「視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう」(国) 「わたしたちのくらしと日本国憲法」(社)	
	A-(4)個性の伸長	⑥自分らしく		「てこのはたらき」(理) 「明治の国づくりを進めた人々」(社) 「豊かな表現を求めて」(音) 「墨と水から広がる世界」(図)	
6月 ④	D-(19)生命の尊さ	⑤母とながめた一番星	尾瀬自然体験学習	「夏をすずしくさわやかに」(家)	水泳学習 授業参観
	A-(2)正直、誠実	⑥のりづけされた詩		「春のいぶき」(国)	
	D-(20)自然愛護	⑥ロレンゾの友達		「時計の時間と心の時間」(国) 「分数のわり算を考えよう」(算数) 「植物のからだのはたらき」(理) 「新しい日本、平和な日本へ」(社)	
	B-(10)友情、信頼	⑥チョモランマの清掃登山隊		「夏のさかり」(国) 「割合の表し方を調べよう」(算)	
7月 ②	C-(16)よりよい学校生活、集団生活の充実	⑤森の絵	宿泊学習	「につぼんのうた みんなのうた」(音) 「おもしろ筆」(図)	
	C-(15)家族愛、家庭生活の充実	⑤ぼくがいるよ	終業式	「イーハトーブの夢 畑山博」(国) 「につぼんのうた みんなのうた」(音) 「まかせてね 今日の食事」(家)	
8月 ①	D-(22)よりよく生きる喜び	⑥小川笙船	始業式	「江戸幕府と政治の安定」(社)	真夏の雪祭り
9月 ③	D-(8)感謝	⑤おじいさんのあたたかな目	村民大運動会	「地域のさまざまな保健活動」(保健)	
	C-(18)国際理解、国際親善	⑥幸せをいのって綴るじゅうたん		「形が同じで大きさのちがう図形を調べよう」(算) 「世界の未来と日本の役割」(社) 「私たちの国の音楽」(音) 「世界と日本の夏休みの過ごし方を比べよう(外)」	
	D-(21)感動、畏敬の念	⑥美を求めて 植村松園	校内マラソン記録会	「森へ」(国) 「月の形と太陽」(理)	
10月 ④	B-(11)相互理解、寛容	⑤すれちがい		「せんねん まんねん」(国) 「生き物のくらしと環境」(理) 「病気の起こり方」(保健) 「秋探し」(国)	いもの収穫
	D-(19)生命の尊さ	⑤電池が切れるまで		「地域のさまざまな保健活動」(保健) 「光の形」(図)	
	C-(12)規則の尊重	⑤お客様		「鳥獣戯画を読む」(国) 「世界に歩み出した日本」(社) 「越天楽今様(共)」(音)	
	C-(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	⑥古きよき心		「生き物のくらしと環境」(理) 「につぼんのうた みんなのうた」(音) 「地域のさまざまな保健活動」(保健)	
11月 ③	D-(20)自然愛護	⑥帰ってきたクニマス	村児小中文化祭	「新しい日本、平和な日本」(社) 「私たちの国の音楽」(音) 「地球に暮らす生き物について考え、そのつながりを発表しよう(外)」	伊南小学校との交流
	C-(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	⑥大みそかの朝に		「柿山伏について」(国) 「動物のからだのはたらき」(理) 「演奏のみりよく」(音)	
	A-(5)希望と勇気、努力と強い意志	⑤世界に羽ばたく「航平ノート」			
12月 ③	B-(10)友情、信頼	⑤友のしょう像画	校内美化活動	「冬のおとずれ」(国)	曲げ輪作り体験
	A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任	⑥会話のゆくえ	終業式	「わたしたちのくらしと日本国憲法」(社) 「豊かな表現を求めて」(音) 「病気の起こり方」(保健)	
	A-(5)希望と勇気、努力と強い意志	⑥栄光の架け橋		「わたしたちのくらしと日本国憲法」(社)	
1月 ④	A-(6)真理の探究	⑤植物とともに 牧野富太郎	始業式 スキー教室	「文字と式」(算) 「水溶液の性質とはたらき」(理) 「ひびき合いを生かして」(音) 「病気の起こり方」(保健)	新聞作り・プレゼンテーション
	D-(22)よりよく生きる喜び	⑥青の洞門	雪上運動会	「町人の文化と新しい学問」(社)	
	A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任	⑤うばわれた自由		「わたしたちのくらしと日本国憲法」(社) 「わたしたちの国の音楽」(音)	
	B-(7)親切、思いやり	⑤UDって何だろう		「演奏のみりよく」(音)	
2月 ③	D-(19)生命の尊さ	⑤二十分の出来事	雪崩祈念日集会	「海の命」(国) 「生き物のくらしと環境」(理) 「わたしたちのくらしと日本国憲法」(社)	授業参観
	B-(7)親切、思いやり	⑥最後のおくり物		「演奏のみりよく」(音)	
	C-(18)国際理解、国際親善	⑥米づくりがアフリカを救う	校内美化活動	「世界の未来と日本の役割」(社) 「私たちの国の音楽」(音) 「寄せ書きのメッセージを伝えよう」(外)	
3月 ②	A-(1)善悪の判断、自律、自由と責任	⑤アップするの？	卒業式練習	「わたしたちのくらしと日本国憲法」(社) 「音楽に思いをこめて」(音)	校内なわとび記録会
	B-(11)相互理解、寛容	⑥差し出し続けた大きな手	修了・卒業式		

相双地区道徳教育推進校「南相馬市立鹿島中学校」実践報告書

1 学校紹介

学 校 名	南相馬市立鹿島中学校
所 在 地	南相馬市鹿島区寺内字落合 28 番地
校 長 名	高橋知宏
教育目標	○知・自ら学習する生徒 ○徳・心豊かな生徒 ○体・健康でたくましい生徒
学 級 数	学級数 12
生 徒 数	生徒数 289 名



2 研究テーマ

対話的な学びによる学び合い・高め合う活動を通し、自己肯定感を育む授業づくり

3 研究テーマ設定の理由

本校の今年度の重点目標は「自立した品格を目指し、学び合い、認め高め合い、最後までやり遂げよう」である。各学年ともに、明るく素直な生徒が多く、特に書く力が身についており、各教科の授業にも自分の考えを書く表現活動などに意欲的に取り組んでいる。また、教室に入ることが難しい生徒に対しても温かな声かけをすることができるなど思いやりのある生徒が多い。今年度6月に実施した道徳に関するアンケートにおいては各内容項目に関する質問で肯定的な評価が多く見られているところである。

一方で、自らの考えを発表するなどの表現力や主体的に学びに向かう力に課題が見られる。昨年度末の学校評価アンケートでは「自分には良いところがある」といった質問など「自己肯定感」に関する項目で否定的な評価が比較的多く、「自己肯定感を育むこと」は本校の学校課題となっている。また、道徳アンケートにおいても、「自分の良さに気づき、自分自身を伸ばしていこう」と思って努力している」の項目について否定的な評価が比較的多かった。周囲から認められ、自分自身に自信をもたせることにより、主体的な行動意欲を高め、学校生活をより充実させることができると考える。

そこで、道徳科の授業改善を核として「自己肯定感」を育む授業づくりについて研究を進めていくために、本主題を設定した。

4 研究の歩み

月 日 (曜日)	研究内容	教育活動全体での共通実践事項
4 月 1 日 (水)	職員会議 (教育目標・目指す生徒像の共有)	(1) 学習意欲を高める学習課題を設定し道徳的価値について、より自分事としてとらえさせる。
4 月 27 日 (月)	全体協議会① (研究の見通し)	(2) 根拠を持って自分の考えをまとめ、友達の意見を受けて自分の考えを見直し、考えを深めさせる。
6 月 22 日 (月)	道徳アンケート①の実施と分析	(3) 自分の考えを発表し、受容的に聴き合う場を設定し、個々の考えの良さを見取り、自信を持たせる言葉かけをする。
6 月 24 日 (水)	研究テーマの設定・研究計画作成	(4) 自己の生き方について、自分なりに考えたこと、友達の考えの良かったところや頑張りを振り返り、学びの手応えをつかませる。
9 月 25 日 (金)	授業研究Ⅰ	
10 月 8 日 (木)	授業研究Ⅱ	
11 月 11 日 (水)	道徳教育地区別推進協議会 (かしま交流センター)	
11 月 25 日 (水)	全体協議会② (中間のまとめ)	
12 月 8 日 (火)	授業研究Ⅲ	
12 月 10 日 (木)	授業研究Ⅳ	
12 月中旬	道徳アンケート②の実施と分析	
1 月中旬	研究のまとめ	
2 月 17 日 (水)	全体協議会③ (今年度の成果と課題の共有)	
2 月下旬	来年度に向けた課題の整理と教育計画作成	

5 研究推進の成果と課題

【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて

道徳科の授業においては「主体的な学びを促す課題設定の工夫」「多面的・多角的に考えさせる発問の工夫」「お互いを認め合い、励まし合う振り返りの工夫」を手立てとして授業実践し、道徳科の授業づくりについて、次のような成果と課題を得ることができた。(○：成果・●：課題)

- 思考ツールの活用により、子どもの多面的・多角的な考えを引き出すことができたこと
様々な思考ツールの活用を通して、生徒たちは根拠をもちながら、自分の考えを整理、深化させることができていた。また、思考を可視化することができ、授業者の学びの見取りにも効果的であることを学ぶことができた。
- 教員のコーディネート力を高めることができたこと
思考ツールを活用したことで、生徒一人一人の思考を可視化することができ、意図的指名がしやすくなった。さらに、話し合いを通して生徒の思考が多面的・多角的に広がるようにコーディネートを図ることができた。
- 多様なまとめ、振り返りを実践することができたこと
教員だけでなく生徒同士で温かなメッセージを送り合うことで、自己肯定感はもとより、自分の考えをより深めることができていた。授業中の子どもたちの表情も豊かで、振り返りからも満足感をうかがうことができた。また、保護者からのメッセージも有効であった。



【ハートチャートの活用】



【Y字チャートの活用】

- 「ねらい」と「まとめ」の整合性を図り、さらに思考の深化（深い学び）を目指すこと
子どもたちは対話を通して多様な見方・考え方を交流し、考えをまとめることができていた。しかし、振り返りでは教材内容の感想のみで終わっている生徒も見られた。教材から学びながらも、いかに教材から離れ、自分の生き方について考えさせられるかが重要である。本時で学ぶ内容項目について捉え、主発問及び補助発問を工夫していく必要がある。
- 資料分析による発問の吟味をすること
本時に扱う道徳的価値を授業者がしっかりと把握し、具体的な実態から子どもの姿を想定し、問い返しやゆさぶり、発言のコーディネート等を工夫していくことが必要である。授業では教材提示を工夫し、自分事の問題とできるような提示を試みた。その提示のしかたは妥当であったのか、再考していく必要があると考える。事前の準備をしっかりと行い、授業中は子どもの考えを見取り、寄り添い、柔軟に展開するような授業をつくっていききたい。

6 研究を振り返って

授業研究では教員同士が学び合い、充実した学びとなった。しかし、今年度は授業参観等が開催できず、保護者との連携が厳しい状況であった。そこで、学校ホームページ・通信を積極的に発信し生徒たちの良いところやがんばりを保護者に伝えた。さらに、家庭での道徳教育の啓発につなげていくために、大人向けの自己肯定感を高める視点なども紹介することができた。

アンケート調査からは自己肯定感に関する「自分の良さ（長所）」「挑戦心」「他者との関わり」「自己有用感」「規範意識」について、全体として、全ての項目で肯定的評価が多くなっていた。学校全体で取り組んだ実践が一定の成果をあげることができたものとする。



令和2年度 道徳教育全体計画

南相馬市立鹿島中学校



道徳教育別葉（道徳科と教科などの関連）

南相馬市立鹿島中学校 第3学年

	主題「資料名」	内容項目	教科	特別活動	総合・キャリア教育	学校行事	
4	信念を貫いて生きる 「背番号 15 が歩んだ道」 言葉にそえて 「言葉おしみ」	D よりよく生きる喜び B 礼儀	国語「深まる学びへ」B-6, D-21 社会「開国と近代日本のあゆみ」C-16 音楽「日本の歌の美しさ」C-17 技術・家庭「情報モラル」A-3	対面式 生徒会総会 学活「明るい学級づくり」	修学旅行判別自主研修とレポート作成	入学式 始業式 修学旅行	2
5	日々を見つめて 「早朝ドリブル」 いじめのない世界へ(1) 「無実の罪」 いじめのない世界へ(2) 「ある日の午後から」 いじめのない世界へ(3) 「いじめから目をそむけない」	A 節度、節制 C 公正、公平、社会正義 A 自主、自律、自由と責任 B 相互理解、寛容	国語「視野を広げて」A-5, C-12 理科「化学変化とイオン」A-5, D-20 社会「二度の世界大戦と日本」C-16 保健体育「生活習慣病の予防」A-3 英語「Presentation1 日本文化紹介」C-17	生徒会総会 奉仕委員会 相双支部陸上大会壮行会 相双中体連壮行会 学活「学級生活を見直そう」	修学旅行のまとめと発表	相双支部陸上大会 中間テスト	4
6	見方を変えれば 「僕にもこんな良いところがある」 先人の思いとともに 「花火と灯ろう流し」 思いやりに連鎖 「一冊の漫画雑誌」 家族の支えがあるから 「背筋を伸ばして」	A 向上心、個性に伸長 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 B 思いやり、感謝 C 家族愛、家庭生活の充実	社会「現代の日本と社会」C-16, D-19 理科「生命の連続性」C-14, D-19 保健体育「飲酒・喫煙・薬物乱用の害」A-2 英語「Daily Scene2 手紙」C-17	奉仕委員会	報徳訓に学ぶさまざまな職業を調べる	相双中体連 期末テスト 校内球技大会	4
7	心から信じあえる友を 「私を支えてくれた言葉」 郷土に息づく心に触れて 「野馬追に懸ける思い」 情報モラルと友情 「合格通知」	B 友情、信頼 C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 B 友情、信頼	国語「言葉を見つめる」A-3. 4, B-6. 7, C-17 社会「私たちと現代社会」B-6, C-14. 16 英語「Unit3 Fair Trade Event」C-11		公共福祉について知る	終業式	3
8	自分の生活を見直して 「スマホに夢中」	B 節度、節制	国語「状況の中で」A-3. 4, C-17 音楽「混声合唱の深まり」A-3			始業式	1
9	いのちを考える(1) 「あなたはすごい力で生まれできた」 いのちを考える(2) 「くちびるに歌を持て」 いのちを考える(3) 「たとえばくに明日はなくとも」	D 生命の尊さ D 生命の尊さ D 生命の尊さ	英語「A Mother's Lullaby」C-18, D-19	奉仕委員会 生徒会役員選挙	福祉体験学習	教育相談 相双駅伝大会 新人戦	3
10	伝統をつくるもの 「受け継がれる思い」 将来の自分を見つめて 「好きな仕事か安定かなやんでいる」 規則の意義とは 「二通の手紙」	C よりよい学校生活、集団生活の充実 C 勤労 C 遵法精神、公德心	国語「いにしえの心と語らう」C-17 理科「運動とエネルギー」A-5 保健体育「感染症の予防」A-2	生徒会総会 奉仕委員会 学活「文化祭を盛り上げよう」	自分の適性、自分の進路学習	中間テスト 文化祭	3
11	より高い目標を目指して 「高く遠い夢」 寄り添う中で 「寄り添う中で」 周りの人に支えられて 「埴生の宿」 働くことの喜びとは 「タンポポ作業所」	A 希望と勇気、克己と強い意志 C 社会参画と公共の精神 B 思いやり、感謝 C 勤労	国語「論旨を捉えて」A-5, B-8, C-15 社会「私たちと経済活」A-1, C-16 理科「地球と宇宙」D-20 美術「ゲルニカ」C-18 技術・家庭「家族・家庭と地域」B-6, C-14 英語「Unit6 Striving for a Better World」A-4			期末テスト	4
12	弱さと向き合って 「足袋の季節」 差別や偏見をなくすために 「伝えたいことがある」 心の平和を求めて 「命みつめて」	D よりよく生きる喜び C 公正、公平、社会正義 C 国際理解、国際貢献	技術・家庭「幼児の生活と家族」B-6, C-14	奉仕委員会		三者面談 終業式	3
1	恩恵に感謝して 「よみがえれ、日本海！」 生きている今を見つめて 「たとえばくに明日はなくとも」 価値をめぐって 「しあわせって」 次世代の担い手として 「缶コーヒー」	D 自然愛護 D 生命の尊さ B 相互理解、寛容 C 遵法精神、公德心	国語「未来に向かって」A-3, D-22 社会「私たちと国際社会」D-19 理科「地球と私たちの未来のために」A-4, C-10. 16 音楽「くらしとともにある様々な音楽」C-17 保健体育「健康な生活と病気の予防」A-2 英語「The Green Door」B-6			始業式 学年末テスト	4
2	価値をめぐって 「おたがいのちがいを認め合おう」 神秘の世界へ 「ハッチを開けて、知らない世界へ」 強く生きていくために 「湖の伝説」 その子の世界、私の世界 「その子の世界、私の世界」	B 相互理解、寛容 D 感動、畏敬の念 A 真理の探究、創造 C 国際理解、国際貢献	数学「総合問題」A-3 社会「よりよい社会をめざして」C-16 音楽「卒業に向けて」D-21 技術・家庭「わたしたちの消費生活と環境」A-1, C-12 英語「An Artist in the Arctic」d-19 理科「持続可能な社会をつくるために」C-18	生徒会役員選挙 奉仕委員会			4
3	その子の世界、私の世界 「そのこ」	C 国際理解、国際貢献	美術「あなたへ」A-3 保健体育「文化としてのスポーツの意義」A-3			卒業証書授与式 修了式	1
合計							36

いわき地区道徳教育推進校「福島県立四倉高等学校」実践報告書

1 学校紹介

学校名	福島県立四倉高等学校
所在地	いわき市四倉町五丁目4番地
校長名	金成智子
教育目標	1 豊かな人間性と創造性を養う。 2 真理を求め、正しく判断する知性を養う。 3 勤労を尊び、社会に奉仕・貢献する精神を養う。 4 健康なからだと思いやりのある心を養う。
学級及び生徒数	学級数 6（普通科） 生徒数 163名



（春の南校舎の風景）

2 研究テーマ

教員が道徳のキーワード（視点）をより意識してホームルームや学校行事を実施する。このことにより、生徒に問題点を明確に意識させ、生徒の自己有用感を育てる。

3 研究テーマ設定の理由

本校の生徒は、将来的に地域で活動することを期待され、実際に多くの卒業生がその期待に応えている。

しかし、入学時の生徒は、成功体験が少なく、自己有用感があまり高くない。また、コミュニケーションが苦手で、他人の気持ちを十分に推し量ることができない生徒も多い。

そのため、道徳教育について、より明確にできるよう、キーワードとして道徳教育の視点をいくつか示し、それを通じて問題を考えさせる一助とするため、本テーマを設定した。

4 研究の歩み

月日（曜日）	主な研究内容	意識するキーワード
6月19日（金）	事業内容と今後の計画についての確認	規範意識、生命尊重
7月16日（木）	薬物乱用防止教室 講師：いわき中央警察署 秋元久美子 様	
8月19日（水）	研究内容、計画の確認、周知	
8月25日（火）	性教育講座（1、2年） 講師：地区福祉センター 永山綾子 様	生命、家族、絆
8月26日（水）	事前研究会	自主、自立、情報モラル、自由と責任
8月27日（木）	LHR① 道徳を考える①（全学年） ※「ふくしま道徳教育資料集」活用	
8月28日（金）	事後研究会	
9月10日（木）	「モラル・エッセイ」コンテストへの参加 生徒36名が参加し、うち7名が応募 高校生の部 優秀賞 「気持ち」 諸橋琴音	モラル、責任
9月29日（火）	事前研究会	

10月 1日(木)	LHR② 道徳を考える②(全学年) ※「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳科教材」活用	差別、偏見、公正、公平
10月 2日(金)	事後研究会	
11月 5日(木)	道徳教育地区別推進協議会 実践発表 四倉高等学校 校長 金成智子 教諭 梶川光生 教諭 峯岸聡 講義「小中高それぞれの発達段階に応じた道徳教育の充実」 國學院大學 教授 澤田浩一 様	
12月 7日(月)	性教育講話(1、2、3年) 講師：医療法人慈繁会 トータルクリニック 佐藤聡子 様	生命、家族、絆
1月 15日(金)	性教育講座(3年) 講師：地区福祉センター 永山綾子 様	生命、家族、絆
2月 22日(月)	実施報告書提出	

5 研究推進の成果と課題

【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳科教材」の活用について

- 差別と偏見はいじめと同じように人を傷つけることであり、絶対にしてはいけないと分かっているにもかかわらず、実際の生活の中で具体的に考えることは少ない。本時の話し合いを通して、差別や偏見について、自分事として考えることで自分を見つめることができた。
- いくつかの選択肢を与えたことにより、選んだものの理由についてもしっかりと考えることができた。
- 班内で意見をまわし読みし、さらに自分が共感できる意見や自分と違う意見に付箋をつけることにより、さまざまな意見を共有することができた。また、クラスメイトの意見を読んで、自分の意見を改めたり、加筆したりすることで思考が深まった。



- 班内での意見共有はできたが、クラス全体で共有する時間がとれなかった。
- 差別や偏見を自分のこととして捉え、さらに多様な考えを引き出すための発問に工夫が必要だった。
- どのようにすれば、自覚していない差別や偏見を取り除けるかまで考察を深められなかった。

【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- グループワークでは、他人の意見を批判したりせず、しっかり相手の意見を最後まで聞くように指導した結果、積極的に話をする生徒がでてきた。
- 教員が思っている以上に、生徒も「自己主張の難しさ」について考えている様子で、今後の学校生活への期待が持てると感じた。
- 生徒の感想の中で、「自分が面倒なことに巻き込まれたくないから差別や偏見が起こってしまう」、「周囲の空気に合わせて自分が正しいと思うことが言えないから差別や偏見がなくならない」等の意見が記入されており、生徒の目線で考えを深められた。



- 事前にキーワードを設定したが、差別と偏見が中心となり、公正と公平という視点が少なかった。

6 研究を振り返って

新型コロナウイルスの影響で5月中旬まで臨時休校となり、当初の計画を大幅に変更した。高等学校には「道徳科」という科目がないため、学校行事とLHRでの取組を中心とし、キーワードを明確にすることで、教員と生徒に問題点をより意識しやすくした。

LHR①では、「ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集」の「チェーンメール」を題材にした資料を活用し、震災と情報モラルを関連づけて自分の行動に責任を持つ態度を育成するように工夫した。またワークシートとして新型コロナウイルスを題材にした西日本新聞の記事を活用し、より深く考察できる一助とした。また、教員に「自主、自立、情報モラル、自由と責任」をキーワードとして示し、それを意識して授業ができるように配慮した。

LHR②では、「新型コロナウイルス感染症に係るいじめの未然防止に向けた道徳科教材」の「外国籍の高校生の話」と「医療従事者のSNS投稿」を活用し、新型コロナウイルス感染症が社会に及ぼす影響から、自分がとるべき態度や行動を考察するように工夫した。また、その他の補助教材として1学年では新潟県見附市HPの資料を、2学年ではゴミ袋に書かれた住民から作業員への感謝のメッセージを、3学年では日本赤十字社の「新型コロナウイルスの3つの顔」と読売新聞社説を用いて多角的に考察できる一助とした。また、教員に「差別、偏見、公正、公平」をキーワードとして示し、それを意識して授業ができるように配慮した。

新型コロナウイルス感染症に係る教材は、生徒にとって身近で、考えを引き出しやすかった。差別や偏見はよくないことと認識してはいるが、自分の立場や個人と集団で考えが変わってくること、正しい知識がないと偏見につながることに、自覚していない差別や偏見が意外に多いこと等に考えを深めることができた。

性教育講座は本校生徒の実情を考慮し、2回実施した。それぞれ違う講師を招き、「生命、家族、絆」をキーワードとして異なる視点から講演をいただいた。近い将来、社会人となり家庭を築く段階にある生徒にとっては、有益な話題であった。また、学年別に実施できたことも生徒にとっては集中できる環境だった。

最後に今年度、推進校に選ばれて取り組むことで、高等学校における道徳の重要性を再確認することができた。

令和2年度道徳教育全体計画

福島県立四倉高等学校

【校 訓】
希望・愛情・勤労・向上

【関係法規等】	学 校 の 教 育 目 標	学校・地域・生徒の実態 保護者、教師の願い
日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領など	☐ 豊かな人間性と創造性を養う。 ☐ 真理を求め、正しく判断する知性を養う。 ☐ 勤労を尊び、社会に奉仕・貢献する精神を養う。 ☐ 健康なからだと思いやりのある心を養う。	☐ 実態 ・素直で優しい。 ・コミュニケーション能力にやや欠ける。 ・自主的、自律的な行動が不足している。 ☐ 願い ・他人の気持ちを推し量る事ができる。 ・自分を大切にすることができる。 ・地域で活躍することができる。

道 徳 教 育 の 重 点 目 標
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養う。

各 学 年 の 目 標		
第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
☐ 集団の一員であることを自覚させ、協調性を培うとともに、思いやりのある心を育てる。	☐ 公正な判断ができ、適切な行動がとれるようにするとともに、集団の一員としての自覚や協調性を養う。	☐ 社会・集団の一員としての帰属意識、規範意識を高めさせるとともに、社会人としての資質を高める。

道 徳 教 育 の 方 針
家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中で、道徳的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神、自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養う。

生徒指導との関連	家庭・地域社会との連携
☐ 日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付けさせる。 ☐ 生徒理解の基盤に立ち、積極的な生徒指導を図り、好ましい人間関係を醸成する。	☐ 市民総ぐるみ清掃参加 ☐ 四倉夏まつりへの参加 ☐ 清掃ボランティア ☐ 公開文化祭、ふくしま教育週間等々

各教科における指導	特別活動における指導	総合的な学習・探究の時間における指導
-----------	------------	--------------------

令和2年度 LHR活動における道徳関連の年間計画（網掛けが道徳関連行事）

（4月21日から5月24日まで臨時休業）

学年		1学年		2学年		3学年	
月	日	活動テーマ	指導上の留意点	活動テーマ	指導上の留意点	活動テーマ	指導上の留意点
4	10	UPI調査・進路希望調査	自分自身の心の状態や進路希望を把握させる				
	10	校舎案内・自己紹介	四倉高校の教室配置やルールを理解させる				
	13	ジャージの配付・テスト事前指導	テスト受験時のルールを理解させる				
	16	三部長指導	高校生活について理解させる	進路を考える①	基礎学力診断テストを活用させる	アンケート・進路希望調査	進路実現に向けて自己の適性を考えさせる
	23						
	30						
5	7						
	21						
	28						
6	4	1学年レクリエーション①	1学年の団結力を高めさせる	進路を考える②	自分の進路について考えさせる	学校生活について	最終学年としての位置づけを確認させる
	11	防災避難訓練①	災害が起こった時にとるべき行動を考えさせる	防災避難訓練①	災害時の安全について考えさせる	防災避難訓練①	避難経路を確認して防災意識を高めさせる
	18	生徒会総会・家庭クラブ総会	集団の一員としての自覚を持たせる	生徒会総会・家庭クラブ総会	集団の一員としての自覚を持たせる	生徒会総会・家庭クラブ総会	集団の一員としての自覚を持たせる
	25	1学期期末考査に向けて	期末考査に向けて勉強の計画を立てさせる	学力キャッチアップ週間	服装を正して考査に臨むよう意識を高めさせる	定期考査に向けて	服装など考査を受ける姿勢を理解させる
7	16	進路を考える①	進路選択をする上での注意点を考えさせる	校内ビブリオバトル	自分の言葉でしっかりと伝えさせる	校内ビブリオバトル	自分の意見をしっかりと伝えさせる
8	27	道徳を考える①	多様な倫理観があることを理解させる	道徳を考える①	多様な倫理観があることを理解させる	道徳を考える①	多様な倫理観があることを理解させる
9	3	1学年レクリエーション②	1学年の団結力を高めさせる	基礎学力診断テスト	目標を持ってテストに臨ませる	進路活動について	志望動機について整理し、面接に備えさせる
	10	進路を考える②	進路について調べ、進路意識を高めさせる	進路を考える③	自分の進路について考えさせる	進路活動について	就職試験に向かわせる心構えと準備をさせる
	17	職業について知ろう	職業について理解させる	修学旅行について①	修学旅行の事前準備	進路活動について	文書指導や礼状指導を中心に行う
	24	救急救命講習	事故が起きたときの行動について考えさせる	修学旅行について②	修学旅行の事前準備	進路活動について	文書指導や礼状指導を中心に行う
10	1	道徳を考える②	テーマに沿って考えを深めさせる	道徳を考える②	テーマに沿って考えを深めさせる	道徳を考える②	テーマに沿って考えを深めさせる
	8	校内文化祭に向けて①	文化祭のクラス企画を考えさせる	修学旅行について③	修学旅行の振り返り	定期考査に向けて	服装など考査を受ける姿勢を理解させる
	22	校内文化祭に向けて②	文化祭のクラス役割分担を決定させる	未来の福島県知事選挙(2年)	選挙について学ばせる	スポーツの秋・みんなで体を動かそう	学年でスポーツを通して、親睦を深めさせる
	29	校内文化祭準備	校内文化祭準備	校内文化祭準備	校内文化祭準備	校内文化祭準備	校内文化祭準備
11	5	遠足にむけて	遠足の注意事項を理解させる	修学旅行について④	修学旅行の事前準備	遠足にむけて	遠足の注意事項を理解させる
	12	防災避難訓練②	災害が起こった時にとるべき行動を考えさせる	防災避難訓練②	災害時の安全について考えさせる	防災避難訓練②	避難経路を確認して防災意識を高めさせる
	19	2学期期末考査に向けて	期末考査に向けて勉強の計画を立てさせる	学力キャッチアップ週間	服装を正して考査に臨むよう意識を高めさせる	定期考査に向けて	服装など考査を受ける姿勢を理解させる
12	3	年賀状を書こう	はがきの使い方や新年の挨拶について理解させる	体育大会メンバー決め	自分が出場する種目を決定させる	租税教室	税に関することを考え、自己の生活に活かせるようにする。
	10	球技大会	クラス団結力を高めさせる	球技大会	クラスで団結して競技に取り組ませる	球技大会	団結力や協調性を体育的活動を通して育ませる
1	14	進路を考える③	進路について調べ、進路意識を高めさせる	進路を考える④	3年生へ向けての準備を意識させる	卒業に向けて	最後の学校生活を充実したものにするよう考えさせる
	21	1学年レクリエーション③	1学年の団結力を高める	進路を考える⑤	就職ガイダンス	定期考査に向けて	服装など考査を受ける姿勢を理解させる
2	4	学年末考査に向けて	学年末考査に向けて勉強の計画を立てさせる	学力キャッチアップ週間	服装を正して考査に臨むよう意識を高めさせる		
	18	一年間の振り返り	一年間の自分の取り組みを反省させる	1年間の考査を振り返る	3年生へ向けての準備を進めさせる	3年登校日・社会人になろう	社会人になるために必要なことを考えさせる
	25	お世話になった人への礼状を書こう	手紙の書き方を理解させる	卒業式へ向けて	服装を正して式に臨む準備をさせる	3年登校日・卒業式に向けて	感謝の気持ちを表現させる
3	18	2年生に向けて	2年生に向けて、目標を考えさせる	2年生を振り返って	3年生へ向けての準備を進めさせる		
指導内容の分野 * 高等学校学習指導要領解説 特別活動編							
1 ホームルームや学校における生活づくりへの参画		2 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全		3 一人一人のキャリア形成と自己実現			
ア ホームルームや学校における生活づくりへの参画		ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成		ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解			
イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚		イ 男女相互の理解と協力		イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用			
ウ 学校における多様な集団の生活の向上		ウ 国際理解と国際交流の推進		ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成			
		エ 青年期の悩みや課題とその解決		エ 主体的な進路の選択決定と将来設計			
		オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立					